

第二十四回 帝國議會 貴族院議事速記錄第十八號

明治四十一年三月二十五日(水曜日)

午前十時七分開議

議事日程 第十八號 明治四十一年三月二十五日

午前十時開議

- 第一 請願委員長報告
- 第二 明治四十年年度歲入歲出總豫算追加案(第三號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第三 明治四十年年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特第二號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第四 明治四十一年年度歲入歲出總豫算追加案(第二號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第五 明治四十一年年度歲入歲出總豫算追加案(第三號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第六 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第七 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第三號) 審查期限ヲ定ムルノ件
- 第八 官吏恩給法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會
- 第九 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 第十 東洋拓殖株式會社法案(政府提出案) 第一讀會
- 第十一 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會
- 第十二 水利組合法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十三 鹽專賣法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十四 公證人法案(議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十五 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 地方稅制限ニ關スル法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 家祿賞典祿處分ニ關スル法律案(院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 衆議院議員選舉法中改正法律案(院提出案) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 明治三十四年法律第三十九號中改正法律案(院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 東京市電車市營不認可ノ請願 會 議

第二十二 青森築港ニ關スル請願 會 議

第二十三 郵便局設置ノ請願 會 議

第二十四 渡良瀨川沿岸地方特別地價修正洩地地價修正ノ請願 會 議

第二十五 縣區域變更ノ請願 會 議

第二十六 北海道鐵道天鹽北見線工事速成ノ請願 會 議

第二十七 甲府岩淵間鐵道速成ノ請願 會 議

第二十八 漁業料減額ノ請願 會 議

第二十九 樺太島閉鎖漁場開放再許可ノ請願 會 議

第三十 露國政府ヨリ取消サレタル優先漁業權ノ再許可ニ關スル請願 會 議

第三十一 奈古浦九擊沈ニ關シ被害者救濟ノ請願 會 議

第三十二 平戶區裁判所御厨出張所設立ノ請願 會 議

第三十三 佐世保區裁判所出張所設置ノ請願 會 議

第三十四 故參謀總長有栖川宮熾仁親王殿下ノ神靈ヲ官幣社トシテ奉祀ノ請願 會 議

第三十五 越羽海岸鐵道酒田新庄間鐵道速成ノ請願 會 議

第三十六 酒造稅法中改正ノ請願 會 議

第三十七 畑地租特免ノ請願 會 議

第三十八 借地人ノ權利保護ニ關スル請願 會 議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

一昨二十三日本院ニ於テ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案

陸軍營繕費補充資金特別會計法案

明治二十三年法律第二十七號中改正法律案

獸疫豫防法中改正法律案

畜牛結核病豫防法中改正法律案

滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル左ノ請願ハ各意見書ヲ付シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

利根川河身工事速成ノ請願

小學校教員官設鐵道無賃乘車ノ請願

鐵道列車ニ禁煙室設備ノ請願

菊川水路改修ノ請願

酒造稅法中改正ノ請願

廣島江津間鐵道速成ノ請願

鐘岬燈臺建設ノ請願

九州鐵道線ニ東郷停車場新設ノ請願

北海道旭川遊廓廢止ノ請願

郡界變更ノ請願

郵便局移轉ノ請願

石ノ卷船形間船形酒田間鐵道速成ニ關スル請願

渡良瀨川河身改修ノ請願

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

感化法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵徳川 達孝君 副委員長 子爵大久保 忠順君

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案府縣立師範學校長

俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵清棲 家教君 副委員長 男爵菊池 大麓君

衆議院議員選舉法中改正法律案(衆第九號)、衆議院議員選舉法中改正法律案(衆第十八號)特別委員會

委員長 伯爵寺島 誠一郎君 副委員長 一木 喜徳郎君

日本水産銀行法案、漁業法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵吉井 幸藏君 副委員長 村 田 保君

明治三十年法律第三十九號中改正法律案、地租條例中改正法律案特別委員會

委員長 西村 亮吉君 副委員長 馬屋原 二郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

鹽專賣法中改正法律案可決報告書

公證人法案可決報告書

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案可決報告書

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案可決報告書

衆議院議員選舉法中改正法律案(衆第九號)可決報告書

關稅定率法輸入稅表中改正法律案(衆第十六號)可決報告書

昨二十四日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

明治三十九年度豫備金支出ノ件外六件承諾ヲ求ムル件特別委員會

委員長 侯爵大炊御門 幾磨君 副委員長 男爵沖 守 固君

市制中改正法律案(衆第十二號)町村制中改正法律案(衆第十三號)市制中

改正法律案(衆第十九號)町村制中改正法律案(衆第二十號)特別委員會

委員長 伯爵柳澤 保惠君 副委員長 男爵藤大路 親春君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

地方稅制限ニ關スル法律案修正報告書

水利組合法案可決報告書

關稅定率法輸入稅表中改正法律案(政第四十一號)可決報告書

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案可決報告書

明治三十四年法律第三十九號中改正法律案可決報告書

請願委員會特別報告第八號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

明治四十年年度歲入歲出豫算追加案(第三號)

明治四十年年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特第二號)

明治四十一年度歲入歲出總豫算追加案(第二號)

明治四十一年度歲入歲出總豫算追加案(第三號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第三號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

官吏恩給法中改正法律案

東洋殖産株式會社法案

同日衆議院ヨリ同院提出民事訴訟法中改正法律案ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

陸軍刑法案

海軍刑法案

陸軍刑法施行法案

海軍刑法施行法案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル政府提出印紙犯罪處罰法案ハ同院ニ於テ之ヲ否決シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○伯爵德川達孝君 本員ハ是ヨリ感化法中改正法律案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマス、退席ヲ致シテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 德川伯爵ノ特別委員會へ退席ノ要求ハ許可ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔西村亮吉君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 西村君ハ何デスカ

○西村亮吉君 渡良瀬川沿岸特別地價修正法律案ノ特別委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ、御許シテ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 西村亮吉君ノ特別委員會へ退席ノ要求ハ許可ヲ致シテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第一、請願委員長報告

〔三宅秀君演壇ニ登ル〕

○三宅秀君 是ヨリ請願委員會ノ經過ヲ御報告仕リマス、今日ハ最終ノ報告デゴザイマスルカラシテ、二段ニ分チマシテ報告ヲ致シマス、其第一段ニ於キマシテハ、前會本議場ニ於キマシテ、報告シマシタ以來、今日マデノ經過、ソレカラ第二段ニ於キマシテハ、本議會ノ即チ第二十四回ノ帝國議會ニ於テ請願委員會ノ爲シマシタル所ノ成績ヲ御報告ヲ申上ゲル積リデゴザイマス、過日御報告申上ゲマシテカラ今日マデニ請願委員會ヲ三回開イテ居リマス、分科會ハ法制科ニ於テ僅ニ二回開イテ居リマス、何故ニ斯ク分科會ヲ開クコトガ少カッタカト申シマスルト、雜科竝ニ租稅科ノ分科會定日ト致シテ居リマスル日ガ、一ツハ祭日ニ當ッテ居リマスルシ、一ツハ水力電氣ノ參觀ノ爲ニ委員多數ガ其方ヘ赴カレマスル爲ニ、已ムヲ得ズ此兩日ハ分科會ヲ開クコトガ出來ナンダノデゴザイマス、ソレ故ニ法制科ハ二回ニ止マッテ居ル譯デアリマス、請願文書表ハ第八回第九回ノ二回ヲ出シマシタ、請願委員會ノ特別報告ハ四回出シテ居リマス、即チ第五號、第六號、第七號、第八號ノ四回ヲ出シテ居リマス、其後受付ケマシタ所ノ請願書ノ件數ハ六十八件、通數ニ致シマシテ八十四通ゴザリマス、此二週間ノ委員會ニ於キマシテ、院議ニ付スベシト議決イタシマシタモノハ八十五件ゴザイマス、今日マデ審査未了デ終リマシタモノガ十五件ゴザイマス、此院議ニ付スベシト委員會ニ於テ議決イタシマシタモノデ特別報告トナッテ本議場ニ現レヌモノガ一ツゴザリマス、ソレハ長野地方裁判所ノ管轄變更デアリマシテ、是ハ委員會ニ於テハ可決イタシマシタケレドモ、其中ニ法律トナッテ通過イタシテ仕舞ヒマシタカラ、詰リ請願人ノ願意ハ届イタ譯ニナリマスカラ、院議ニ付スルヲ要セズト云フ工合ニ變リマス、ソレカラ審査未了ノモノガ十五件ゴザリマスルガ、是ハ或ハ關稅定率ノ件、或ハ地方稅制限ノ件、或ハ家祿賞典祿ノ件デゴザリマシテ、何レモ皆特別委員ノ御手ニ其法律ガ渡ッテ居リマスカラシテ、詰リ特別委員ノ法律ノ御調査ノ方ニ讓リマシテ、請願委員會ノ方デハ取捨ヲ決セズニ控ヘテ居リマシタ譯デアリマス、ソレ故ニ總數ノ中デ十五件ト云フモノハ審査未了デ終ッテ居

リマス、其他ハ皆片ガ付イテ仕舞ッテ居リマス、ソレカラ全ク審査ニ著手イ
タシマセズデ昨今マデ受付ケテ居リマス請願文書ガ二十四件、二十四通ゴ
ザリマス、是ハ如何ニモ提出ノ時期ガ後レマシタ故ニ文書ヲ作り且ツ委員ガ
審査會議等ヲ致シテ居ルコトガ出來マセヌ爲ニ、審査ニ著手イタサズニ殘ッ
テ居リマスルノデゴザイマス、ソレカラ前申上ゲマシタ所ノ全體ノ報告デア
リマス、本會期ニ當リマシテ請願委員デ取扱ヒマシタ事業ハ、請願委員會ガ前
後九回、分科會ハ十八回、請願文書表ヲ出シマシタコトガ九回、請願委員會
特別報告ヲ出シマシタコトガ八回、受付ケマシタ所ノ請願ノ件數ガ二百五十
一件、通數ニ致シテ三百五十七通、請願文書表ニ掲ゲマシタ件數ガ二百二十
七件、其中デ院議ニ付スベシト議決イシタルモノガ百二十九件、院議ニ付ス
ルヲ要セズト議決イタシマシモノガ八十三件、審査未了ノ分ハ即チ前ニ申シ
マシタ通り十五件デゴザイマス、此院議ニ付スベシト議決イタシマシタ百二
十九件ノ中、其多數ハ既ニ今日マデニ本院ノ會議ヲ通過イタシテ居リマス、
尙ホ今日議事日程ニ上ボッテ居ルモノト、明日三十件餘議事日程ニ上ボル筈
デゴザイマスガ、何レモ皆請願委員會ニ於テハ採擇スベキモノト議決イタシ
マシタモノデゴザイマスカラ、何卒格別ノ不都合ヲ御見出シニナリマセヌケ
レバ委員長ノ報告通り本院デモ御採擇ニナラムコトヲ、希望イタシマス、是デ
報告ヲ終リマス

○伯爵大村純雄君 是ヨリ質屋取締法中改正法律案ノ特別委員會ヲ開キタイ
ト思ヒマスガ、退席イタシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 大村伯爵ノ委員會ヘ退席ノ要求ハ許可シテ御異議
ハゴザイマセスカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、明治四十年年度歳入歳出總豫算追加
案第三號審査期限ヲ定ムルノ件、第三、明治四十年年度特別會計歳入歳出豫算
追加案第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第四、明治四十一年度歳入歳出總豫
算追加案第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第五、明治四十一年度歳入歳出總豫
算追加案第三號審査期限ヲ定ムルノ件、第六、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ
契約ヲ爲スヲ要スル件追第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第七、豫算外國庫ノ

負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第三號審査期限ヲ定ムルノ件、唯今
議長ガ讀ミマシタダケヲ一括シテ問題ト致シテ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、明治四十年年度歳入歳出總豫算追加
案第三號審査期限ヲ定ムルノ件、第三、明治四十年年度特別會計歳入歳出豫算
追加案第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第四、明治四十一年度歳入歳出總豫
算追加案第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第五、明治四十一年度歳入歳出總豫
算追加案第三號審査期限ヲ定ムルノ件、第六、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ
契約ヲ爲スヲ要スル件追第二號審査期限ヲ定ムルノ件、第七、豫算外國庫ノ

負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第三號審査期限ヲ定ムルノ件、唯今
議長ガ讀ミマシタダケヲ一括シテ問題ト致シテ御異議ハゴザイマセスカ

負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第三號審査期限ヲ定ムルノ件、唯今
議長ガ讀ミマシタダケヲ一括シテ問題ト致シテ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

明治四十一年三月二十四日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十一年三月二十四日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

○子爵岡部長職君 議事日程第二ヨリ第七ニ至リマスル豫算ニ關係ノ各案ノ
審査期限ハ審査結了次第報告ヲ致スト云フコトニ御取決メヲ願ヒタイ
○子爵會我祐準君 賛成
○男爵松平正直君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 岡部豫算委員長ノ審査期限ヲ審査結了次第ト云フ
其動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八、官吏恩給法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、本日モ總テノ議案ノ朗讀ハ省略イタシテ御異議
ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

官吏恩給法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十一年三月二十四日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

官吏恩給法中改正法律案

官吏恩給法中左ノ通改正ス

第十三條中「及東京市京都市大阪市北海道ノ區長」ヲ「東京市京都市大阪市
北海道ノ區長沖繩縣區制ニ依ル區長及居留民團ノ民長助役會計役」ニ改ム

〔政府委員道家齊君演壇ニ登ル〕

○政府委員(道家齊君) 本案ノ理由ハ極ク簡單デゴザイマスガ、一應申上ゲ
マスルデゴザイマス、現行法ニ依リマスルト、官吏ガ法令ニ依ッテ設立イタシ
マシタ議會ノ議員、若クハ市町村ノ市町村長助役等ニナリマシタ場合ニハ恩
給權ヲ失ハナイト云フコトニナッテ居リマスノデ、此度沖繩縣ニ市制ヲ施行
スルコトニナリマスカラ、其結果トシテ區長ト云フモノガ出來マスルシ、又
助役モ出來マスル様ニナリマス、又韓國ニ於キマシテハ居留民團ト云フモノ
ヲ設置セラレル結果、民團長並ニ助役ト云フモノガ出來マスルニ依リマシテ
是等ハ内地ノ市町村ト同ジ様ナ性質ノモノデゴザイマスルノデ、ソレラノ權
衡上カラ是等ノ役員トナルニ付キマシテ官吏ヲ辭スル場合ニ於キマシテハ、
矢張り恩給權ヲ失ハセナイノガ至當デアラウト云フ考ヲ以テ本案ヲ提出イタ
シマシタ次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モ無イト認メマスカラ次ノ日程ニ移リ
マス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第九、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委
員ノ選舉、此特別委員ノ選舉ハ議長ノ選定デ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十、東洋拓殖株式會社法案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會

東洋拓殖株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付
候也

明治四十一年三月二十四日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

東洋拓殖株式會社法

第一章 總則

〔小字ハ修正、ハ削除ノ符號〕

第一條 東洋拓殖株式會社ハ韓國ニ於テ拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ韓國ニ置ク

第二條 東洋拓殖株式會社ノ資本ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 東洋拓殖株式會社ノ株式ハ總テ記名式トシ日韓兩國人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第四條 東洋拓殖株式會社ノ資本増加ハ株金全額ノ拂込アルコトヲ要セス

第五條 東洋拓殖株式會社ノ存立時期ハ設立登記ノ日ヨリ百年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ東京其ノ他ノ地ニ置ク

第二章 役員
第七條 東洋拓殖株式會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事四人以上、監事三人以上ヲ置ク

第八條 總裁ハ東洋拓殖株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌ス
監事ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監査ス

第九條 總裁ハ日本人トシ政府之ヲ命ス
副總裁ハ一人ハ日本人トシ一人ハ韓國人トス

理事及監事ハ其ノ員數ノ少ナクトモ三分ノ二ハ日本人トシ其ノ他ハ韓國人トス

副總裁及理事中日本人ハ政府之ヲ命シ韓國人ハ韓國政府之ヲ命ス但シ理事ノ任命ニ付テハ株主總會ヲシテ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ各二倍ノ候補者ヲ選舉セシム

監事ハ株主總會ニ於テ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉ス
總裁、副總裁及理事ノ任期ハ五年トシ監事ノ任期ハ二年トス

第十條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 營業
第十一條 東洋拓殖株式會社ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一 農業

二 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ賣買及貸借
三 拓殖ノ爲必要ナル土地ノ經營及管理

四 拓殖ノ爲必要ナル建築物ノ築造、賣買及貸借
○拓殖ノ爲必要ナル

五。日韓移民ノ募集及分配
六 移民及韓國農業者ニ對シ種苗、肥料其ノ他産業用原料ノ供給
○拓殖上必要ナル物品ノ供給或ハ其ノ生産又ハ獲得シタル物品ノ分配

七 移民及韓國農業者ニ對シ建築材料及産業用ノ器具、機械、舟車及獸畜ノ供給
八 移民及韓國農業者ノ生産又ハ獲得シタル物品及日韓移民ニ必要ナル物品ノ賣買、運送及貯藏

九 拓殖上必要ナル資金ノ供給

第十二條 東洋拓殖株式會社ハ拓殖上必要ナリト認ムルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ韓國ニ於テ左ノ附帶事業ヲ營ムコトヲ得
他拓殖上必要ナル事業ヲ營ムコトヲ得

- 一 水産業
- 二 鑛業
- 三 農水産物ヲ原料トスル製造業
- 四 其ノ他拓殖上必要ナリト認ムル事業

第十三條 第十一條第九號ノ資金供給ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ
一 日韓移民ニ對シ二十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル移民費ノ貸付

二 移民及韓國農業者ニ對シ十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依ル韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル貸付

三 移民及韓國農業者ニ對シ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル貸付

四 移民及韓國農業者ニ對シ其ノ生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保トス

ル貸付

五 韓國ニ於ケル不動産ヲ擔保トスル三年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル

貸付

前項第一號ノ貸付ニ付テハ豫メ其ノ方法及條件ヲ定メ政府ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第一項第二號乃至第五號ノ貸付金總額ハ拂込資本額及社債未償還額ノ合
計ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 不動産又ハ動産ヲ擔保トスル貸付金額ハ東洋拓殖株式會社ニ於
テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス但シ前條第一項第一號ノ貸付ニ付
テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 不動産ヲ擔保トスル貸付ニ付テハ第一順位ノ擔保ナルコトヲ要
ス

第十六條 貸付金ノ年賦償還ニ付テハ五年以内ノ据置年限ヲ定ムヘシ

第十七條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平
等ノ償還額ヲ定ムヘシ但シ据置年限間ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借
用金ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ^{○東洋拓殖株式會社ハ}定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要
求スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スル
コトヲ得

一 債務者カ貸付ノ目的ニ反シテ貸付金ヲ使用シタルトキ

二 債務者カ年賦金ノ拂込ヲ遅延シ催告ヲ受クルモ尙拂込ヲ爲ササルト
キ

三 擔保タル不動産ノ全部又ハ一部カ公用ノ爲收用セララルトキ但シ債
務者ニ於テ收用補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増擔保トス
ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項第三號ノ場合ニ於テ其ノ收用カ一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其
ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 擔保物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十四條ノ割合ニ不
足ヲ生シタルトキハ増擔保ヲ要求シ又ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ

償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セザルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ
要求スルコトヲ得

第二十一條 營業上ノ餘裕金ハ一時國債證券ヲ買入レ又ハ政府ノ指定シタ
ル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十二條 東洋拓殖株式會社ハ營業上必要アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ
借入金ヲ爲スコトヲ得

第四章 東洋拓殖債券

第二十三條 東洋拓殖株式會社ハ拂込資本額ノ十倍ヲ限リ東洋拓殖債券ヲ
發行スルコトヲ得

東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セ
ス

第二十四條 東洋拓殖債券ヲ發行セムトスル場合ニ於テハ毎回其ノ金額、
條件並發行及償還ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ數回ニ分チ拂込ヲ爲サ
シムルコトヲ得

第二十六條 東洋拓殖債券ハ全額拂込ノ後ハ無記名式トス但シ應募者又ハ
所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第二十七條 東洋拓殖債券ノ所有者ハ東洋拓殖株式會社ノ財産ニ付他ノ債
權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二十八條 東洋拓殖株式會社ハ社債借換ノ爲一時第二十三條ノ制限ニ依
ラス東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内
ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 東洋拓殖債券ノ据置年限ハ五年以内トシ其ノ償還期限ハ三十
年以内トス

第三十條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ東洋拓殖債券ノ買入消
却ヲ爲スコトヲ得

第五章 準備金

第三十一條 東洋拓殖株式會社ハ每營業期ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補
フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益
ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第三十二條 政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十三條 政府ハ東洋拓殖株式會社監理官ヲ置キ韓國政府ノ任命シタル

監理官ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監視セシム

東洋拓殖株式會社監理官ハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

東洋拓殖株式會社管理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十五條 東洋拓殖株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解職スルコトヲ得東洋拓殖株式會社ノ役員ニ於テ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキ亦同シ

第三十六條 東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 東洋拓殖株式會社ニ於テ移住規則其ノ他ノ規定ヲ定ムルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 東洋拓殖株式會社ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 政府ハ東洋拓殖株式會社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ起算シ八年間ヲ限リ毎年金三十萬圓ヲ每營業期ニ割當テ補給スヘシ但シ每營業期ニ於ケル利益配當カ拂込資本額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ補給金ノ内ヨリ控除ス

第四十條 利益配當カ拂込資本額ニ對シ年一割ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ先ツ之ヲ前條補給金ノ償還ニ充ツヘシ

前項ノ償還ヲ終ヘタルトキハ該超過金額ハ其ノ半額ヲ特別積立金トスヘシ

第七章 罰則

第四十一條 東洋拓殖株式會社ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 本法ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 第十一條及第十二條ノ規定ニ依ラス業務ヲ營ミタルトキ

三 第十三條乃至第十七條ノ規定ニ違反シ資金ヲ供給シタルトキ

四 第二十一條ノ規定ニ違反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

五 第二十三條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

六 第二十八條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十一條及第四十條ノ規定ニ違反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十二條 東洋拓殖株式會社ノ總裁、副總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條 前二條ニ規定セル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

第四十四條 政府ハ設立委員ヲ命シ韓國政府ノ命シタル設立委員ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第四十六條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込書ヲ政府ニ差出シ東洋拓殖株式會社設立ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條 設立認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第四十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東洋拓殖株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四十九條 第一期ノ理事及監事ハ株主總會ノ選舉ニ依ラス之ヲ任命ス其ノ他ノ條件ニ付テハ第九條ノ例ニ依ル

〔國務大臣松田正久君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松田正久君) 本案ハ專ラ韓國ノ拓殖ヲ目的ト致ス所ノ法案デゴ
ザイマスルガ名ハ東洋ト云フ二字ヲ冠シテアリマスルガ、其實ハ韓國ノ拓殖
ニ止マルノデアリマスル、而シテ日本人ヲ韓國ニ移住セシメテ韓國ノ土地ノ
開拓ニ從事イタサセ、又韓國人モ同様ナ取扱ヲ致ス、之ガ爲ニ株式會社ヲ組
織イタシテ、拓殖ノ事業ヲ統一サセルノ旨趣デゴザイマスル、其内容ニ至リ
マシテハ殆ド五十條ニ互ッテ居リマスルカラ、一々茲ニ説明モ出來マセスカ
ラ、特別委員會ニ於テ其詳細ヲ申述ブルデアリマセウ、會期モ切迫イタシテ
居リマスルカラ、願ハクハ速ニ御議了ヲ願フ次第デゴザイマス

○伯爵廣澤金次郎君 チョット質問ガアリマス、宜シウゴザイマスカ
○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○伯爵廣澤金次郎君 大藏大臣ニ質問ヲシタイコトガゴザイマス、第一、此拓
殖會社ノ目的、即チ業務デアリマスガ、是ハ衆議院ニ於テ修正ニナリマシテ
至ッテ簡單ナ文ニナリマシタガ、是ハ政府デ御同意ニナッタカト云フコトヲ
第一ニ伺ヒタイ、其業務ト云フコトデアリマスガ、政府ノ原案ニ依ッテ見ル
ト、凡ソ商業上ノ、營業上ノ事ト云フモノハ殆ド全體ヲ網羅スル様ニナッ
テ居リマス、ソレデ今日ノ日韓ノ關係ト云フモノハ、甚ダ慎重ナ態度ヲ取ルベ
キモノデアル、即チ外國モ此關係ノコトニ付イテハ非常ニ注意シテ居ルコト
デアリマスカラ、餘リ各般ノ營業ヲ網羅スルト云フコトハ餘ホド氣ヲ付ケナ
ケレバナラスコトダト考ヘルノデアリマスガ、併ナガラ衆議院ノ修正ニナリ
マシテモ拓殖會社ハ總テノ方面ノ仕事ヲシヤウト思ヘバ、此修正デモ出來ル
ト思ヒマス、付キマシテハ大藏大臣ニ説明ヲ煩ハシタイノハ、農工商アテユ
ル事業ヲ網羅シテアリマスケレドモ、韓國拓殖ニ關スル事業ノ外ハ許サスカ
ト云フコトダケヲ第一ニ伺ヒタイデス、第二ニハ此本案ノ第四條「東洋拓殖
株式會社ノ資本増加ハ株金全額ノ拂込アルコトヲ要セス」トアル、是ハ商法
規定ノ除外例デアルト考ヘマスガ、普通株式會社デハ株金全額拂込デナケ
レバ資本増加ノ出來ナイト云フコトハ、商法ノ規定ニモアリマスルシ、是ハ
各國何レノ國ニ於テモ認メラレタル定論ダラウト思ヒマスガ、其定論ヲ破ッ
テ第四條ニ特別ノ除外例ヲ設ケラレタ所ニ依ルト、何等カノ理由ノ有ルコト
ト存ジマスカラ、其理由ヲ伺ヒタイ、次ニ本員ガ質問イタシタイノハ第三十
條デアリマスガ、三十條ニ於キマシテハ「東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ
受ケ東洋拓殖債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得」固ヨリ今日ハ政府ノ自分ノ發

行シタル公債ヲ買入消却スル途ヲ立ッテ居リマスガ、其價格以下ニ買入レ
テ消却スルト云フコトハ甚ダ面白クナイコトト思ヒマスガ、其政府ノ公債ニ
於テサヘ餘リ面白クナイコトヲ又此三十條デ拓殖會社ニ自分ノ債券ヲ買入レ
テ消却スルコトヲ許スノハ、是ニモ何カ事情ガアッテ此株式會社ニ特權ヲ與
ヘラレルノデアリマスカ、其事情ヲ十分ニ御説明ヲ願ヒタイト考ヘマス

〔國務大臣松田正久君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松田正久君) 第一ノ御質問ハ衆議院ニ於テ修正ヲ致シタノニ、
政府ハ同意ヲ致スカト云フ御問ヒデアルガ……

〔子爵曾我祐準君 高聲ニ願ヒマス〕ト述フ

衆議院ノ修正ハ即チ各項ノ事柄ヲ簡單ニ致シタト云フコトニ止マリマシテ、
其精神ニ於キマシテハ、原案ニ相違ハナイト考ヘマシテ衆議院修正通りデ宜
カラウト云フコトデ同意ヲ致シタデアリマス、ソレカラ第二ハ……第二ト
申シテモ、矢張り今ノ第一ニ付イテノ御質問ト思ヒマスガ、拓殖上ニ必要ナル
事業デナケレバ許サナイカト、勿論本文ニアリマスル如ク拓殖上密接ノ關係
ヲ有ツ所ノ事業ノ外ハ許サスト云フ精神デゴザイマス、第四條「株金全額
ノ拂込アルコトヲ要セス」トアルノハ、是ハ拓殖株式會社ニ於テハ他ノ商法
ノ規定ト特別ニ致ス方ガ便利デアルト云フ趣意ニ外ナラスノデアリマス、第
三十條ニ至リマシテハ「債券ノ買入消却」是ハ其都度政府ガ買入消却ヲナサ
シメテモ宜シイト認メタトキニ買入ヲ許スト云フダケノコトデアリマシテ、
是ハ政府ヨリ監督ヲ致ス考ヲ以テ斯ノ如クニ規定ヲ致シタノデアリマス

○伯爵廣澤金次郎君 今ノ御説明デ略々了解イタシマシタガ、第四條ノ資本
ノ増加ニ付イテノ御説明ハマダ要領ヲ得スト考ヘマスガ、大藏大臣ノ御説明
ニ依ルト株金全額ノ拂込ノ無イ場合モ資本増加ハ便利デアルト云フ御説明デ
アリマシタガ、ドノ株式會社ニ於テモ資本金ガ半額若クハ四分ノ一拂込ノ會
社デ……今日ノヤウナ經濟上ノ場合ハ知ラズ、經濟界ノ順境ニナッタ場合ハ
何レノ會社ニ於テモ便利ト思ヒマスガ、唯便利デアルト云フコトダケハ本
員等ノ考フル所デハ理由ニナラス、其裏面ニ何等カノ理由ガアルト考ヘマス
カラ、腹藏ナク御説明ヲ願ヒマス

〔國務大臣松田正久君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松田正久君) 裏面ニハ別段何等ノ理由モ持タヌノデアリマス、
唯是ハ韓國ニ於ケル所ノ會社デアリマスルカラ斯様ニ致シタ方ガ最モ便利ヲ

得ルデアラウト云フダケノ意味デアリマスカラ、左様御了承ヲ願ヒマス

〔伯爵廣澤金次郎君「要領ヲ得マセヌ」ト述フ〕

○下村辰右衛門君 チョット大藏大臣ニ質問ヲ致シタイ、本案ガ通過イタシマスレバ今日マデ韓國ニ於ケル既ニ既設ノ會社、竝ニ個人ノ事業ニ非常ナル影響ヲ來タスコトト考ヘマス、其點ニ付イテハ政府ハ如何ナル御考デアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

〔國務大臣松田正久君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松田正久君) 他ノ會社ニ非常ナル影響ヲ及ボスヤ否ヤト、或ハ及ブデアラウト云フ御想像ト思ヒマスガ、ソレハ決シテ是ガ龍斷ヲ致スト云フ趣意デハゴザイマセスカラ、他ノ會社ガ此會社ノ設立ニ依ッテ自ラ成立シナイ成リ立タナイト云フ程ノコトハアルマイト考ヘルノデアリマス

○議長(公爵德川家達君) 他ニ御質問モ無イト認メマスカラ、次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○男爵小澤武雄君 此特別委員ハ十八名ニシテ議長ノ指名ニ願ヒタイト思ヒマス、其理由ハ此法案ハ條數モ可ナリ多シ、又内容ニ至ッテモ十分重要ナコトデアリマスルノニ、今日此會期ノ切迫シタルトキニ於テ、又少數ノ人デハ審査ガ行届カヌヤウニ思ヒマスカラ、十八名ノ委員ヲ選バレムコトヲ希望イタシマス

○子爵岡部長職君 賛成イタシマス

○子爵曾我祐準君 賛成

○男爵松平正直君 賛成ヲ致シマス

○男爵有地品之允君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 小澤男爵ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其委員ハ議長ノ選定、小澤男爵ノ動議ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第八竝ニ第十ノ法案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

官吏恩給法中改正法律案特別委員

子爵新莊 直 陳君 子爵關 博 直君 子爵伊集院 兼知君

男爵千田 貞 曉君 江木 千之君 男爵島 津 珍 彦君

中島 永元君 馬屋原 二郎君 兒玉 淳一郎君

東洋殖殖株式會社法案特別委員

侯爵黒田 長 成君 侯爵細川 護 成君 伯爵柳原 義 光君

子爵曾我 祐 準君 子爵岡部 長 職君 男爵松平 正 直君

男爵千家 尊 福君 男爵有地品之允君 男爵伊達 宗 敦君

小松原英太郎君 男爵久保田 讓君 山川 健次郎君

男爵吉川 重 吉君 男爵中島 久万吉君 古市 公 威君

藤田 四郎君 澤原 俊 雄君 桑田 熊 藏君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二、水利組合法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、萬里小路伯爵

水利組合法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十四日

右特別委員長

伯爵萬里小路 通房

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵萬里小路通房君演壇ニ登ル〕

○伯爵萬里小路通房君 本案ニ付キマシテ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告イタシマス、委員會ハ三回開キマシテ、ソレソレ各委員ノ質問ヲ濟マシ、ソレカラ政府ノ答辯モ要シ、又大體ニ於テ政府ノ説明ヲ請ウテ委シク聞キマシタ、又終リノ日ニハ内務大臣ノ出席ヲ請ヒマシテ尋ネマシタコトモゴザイマシタ、明治二十三年水利組合條例ト云フモノヲ施行サレテ以來、十有餘年間今日マデ即チ此條項ヲ以テ水利組合ノ事ヲ處理シテ居リマシタ、所ガ色々實驗上適切ナラザル條項モアリ、又不備缺漏ノ場所モ少カラヌ譯デアッテ、今

日ノ水利組合法案ト云フモノヲ提出サレタ所以デアリマス、ソレデ委員會ニ於キマシテハソレソレ質問モアリ、又今日ノ此法案ニ至ッテハ御承知ノ如ク條數モ餘ホド多クアツテ、九十條モゴザイマス、又此改正イタシマシタ案ノ條モ二十一二條ニ及ンデ居ル、大體此法案ハ十分實驗上改正案ノ出來タコトデゴザイマスカラ、十分ニ改正ハ届イタモノト一般委員ハ認メマシタ、先ヅ大體ハ贊成ヲシタ譯デ、デ其委員會ノ贊成ヲシ、又條項ニ付キマシテ改正ノ意味ヲ申上ゲルト今申ス通り二十二條モアリ、ナカナカ長クアツテ、終ヒニハ皆サンガ簡單ト云フ聲ヲ發シル譯ニナルダラウト思ヒマス、又私ガ此所デ喋々辯ジテ諸君ノ御満足ヲ得ルダケノコトモ出來ナイ、ト云ウテ申サズニモ居ラレマセヌカラ、極ク簡單ニ此改正ノ大要ヲ聞キマシタカラ、ソレダケヲ此所デ申上ゲマス、此改正ノ條ハ水害豫防組合員ノ資格ノ是マデ正シク決マッテ居ナカッタノヲ明カニシマシタ、ソレカラ組合ノ事業ニ付キマシテモ不十分ナコトガゴザイマシタ、之ヲ明ニ現ハスコトニ致シマシタ、ソレカラ創立ノ際ニ此創立費ト云フモノノ支辨、總テノコトガ條例ニハ明カニ分ッテ居リマセヌカラ、ソレモ今日支辨方法ヲ明カニスルコトニ改正ヲ致シマシタ、ソレカラ水利組合ノ廢置分合ノコトモ現行法デハゴザイマセヌカラ、是モ明カニ廢置分合ノ途ヲ啓キマシタ、ソレカラ選舉人、此水利組合會ノ議員ノ選舉人ノ資格ガ色々區々ニナツテ居ッテ明カニゴザイマセヌカラ、其資格ト云フモノヲ判然シテ、ドレドレト云フモノヲ選舉人ニスルコトヲ明カニシマシタ、是ナドハ最モ今度ノ條ノ先ヅ變ハリマシテ良クナツタモノデアリマス、ソレカラ議員ノ選舉ニ付イテノ罰則ト云フモノガ現行法ニハ少シモゴザイマセヌ、ソレモ即チ衆議院ノ議員選舉法ニ依リマシテ罰則ト云フモノヲ明カニシマシタ、ソレカラ此水利組合ノ役人、總テノ者ノ退隱料ト云フヤウナモノガ是マデハゴザイマセナンダ、ソレガ退隱料ナドノコトモ入レマシタ譯デ、ソレカラ水利組合ノ唯今行ハレテ居ル所へ新ニ加入スル者ガゴザイマシタトキニ、其加入ヲスルトキニハ以後ノ入費ヲ取ルト云フコトハゴザイマセケレドモ、加入ニ付イテ別段ノ費用ヲ要スルト云フコトモ、是マデ現行法デハ見エマセヌカラ、却ッテ不都合ナ條項モ澤山アリ、不公平ナコトモ澤山出來ルヤウニナリマスカラ、是モ明カニ加入金ト云フモノヲ茲デ出ス：取ルト云フコトヲ入レマシタ、ソレカラ組合費ノ一部ノ入費ヲ賦課スルコトニ付イテハ、其賦課ノ方法ハ不十分ナ點ガ澤山ゴザイマス、是モ明カニ其方法ヲ設ケ

マシタ、斯ク申ストマダ澤山ゴザイマセヌガ、先ヅ重モダツタモノハサウ云フヤウナコトニチヨット申上ゲル譯デアリマスガ、ドウカ御質問ガゴザイマスレバ願ヒマス、私ノ委員會デ承知シ且ツ私ニ分ルコトダケハ御答ヲ致シマス、又分リマセネバ政府委員ニ依ッテ御質問ヲ願ヒマス、デ唯今申シタヤウナ條件ヲ以テ改正案ヲ提出サレタコトデアリマス、ソレカラ申上ゲルノハ此水利組合法案ニ付イテ著シク我ノ考ヘマシタ改正ノコトハ御承知ノ如ク水利組合條例、即チ現今ノ條例ニハ訴願ノ裁決ノコトニ至ッテハ皆矢張り郡參事會、郡參事會ニ行カネバ縣參事會、遂ニ大臣ニモ訴願ノ途ガ開ケテ居リマシタ、現行デハ：所ガ今度ノ法案ハ御承知ノ通り其途ガスッパリ變ッテ仕舞ヒマシテ、即チ第一次監督官廳、郡長ヨリ成立テバ縣へ持ッテ出ル、縣知事ガ監督官廳ノ節ハ大臣へ出ル、ソレカラ行政訴訟モ出來ルト云フ途ガ開ケテ居リマスガ、當時郡制ナリ又縣制ナリ、縣參事會郡參事會ト云フモノガアルニ拘ハラズ是ガ全ク除カレ、且ツ模樣ガ變ヘテゴザイマスノガ我ノ著シク如何カト思ウタ質問ノ條項デゴザイマシタ、ソレデ各委員ニ於テモ其事ハ色々ト質問モゴザイマシタ、ソレデ政府委員ノ答辯ニハ何モ之ニ付イテ深い意味ノアル譯デハナイ、元來此水利組合ト云フモノハ一般ノ法律カラ看做ス譯デモナシ、又他ノ一體ニ付イテ是マデノ訴願上、郡參事會總テノモノヲ逐ハネバナラヌト云フホドノモノデナクシテ、重モナ土地ニ於テノ利益ヲ最モ主トシタ譯デアルカラ、言ハバ會社ト云フヤウナ場合モアル、會社ト看做スト云フヤウナコトモアル、且又第一ノ便利ハ此法ヲ持ッテ行ケバ誠ニ便利デアルカラ、外ニ深い意味ハナイガ、サウ云フコトカラシテ今度ノ改正案ハ郡參事會、縣參事會ヲ除イタ譯デアル、併ナガラ現今郡參事會モ此儘、縣參事會モ此儘、謂ハユル自治體ト云フモノガアリナガラ、之ヲ或ハ會社ゴトキモノニ看做シタリ何カスルト云フコトニ至ッテハ是ハモウ即チ見様ニ依リマスカラ、何トモ此上ハ質問デナクシテ議論ニ涉ッテ改正スルト云フコトニ止マルモノト我ニハ看做シマシタ、先ヅソレガ重モナル譯、ソレカラ又本案ハ御承知ノ通り衆議院ノ修正ガゴザイマシテ、此修正ハ皆委員會デハ同意イタシマシタ、修正ノコトハ修正案モゴザイマスカラ御承知デアリマセウガ、チヨット申上ゲテ見ルト、二十條ノ一番末項ノ「第三項ノ處分ニ依リ議員ト爲リタル者ニ付亦同シ」ト云フコトヲ衆議院デハ削ッタ、其削ッタノハ最モ贊成スベキコトデ、尤モナコトデアアル、即チ重複ノ様ニナツテ居リマス、又是

ハ政府ニ於テモ全ク茲ニ斯ウ云フモノヲ載セルト云フコトハ無用ナモノデアッテ、サウ云フ工合ニ變ヘタ衆議院ノ修正ハ尤モナコトデアルカラ賛成ヲシタ譯デアル、又委員ニ於テモ全ク同意ヲシマシタ譯デ、ソレカラ二十五條ニ至ッテハ、即チ此水利組合法案ノ改正案デ見マス、組合會ノ議長ト云フモノハ謂ハユル知事ガ決メルコトニナッテ居リマシタ、ソレカラ衆議院ノ修正デハ多クノ市町村ニ涉ッテ組合規約ナリ組合ヲ立テルニ至リマシテハ矢張り公選ノ議長ヲ以テスル方ガ至當デアルト云フ譯デ、議長ヲ矢張り公選ニシ、且ツソレニ付イテ副議長モ公選ニスル、議長副議長ガ故障ガアッタトキニハ議員中ヨリ一人ヲ代理セシメ、ソレカラ前項選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定メル、ソレカラ議員中ヨリ議長ヲ選舉スル組合ニ在ッテハ議長ハ會議録ヲ添ヘテ必ズ其議長デアリマシタナラバ管理者ヘ議會ノ模様ヲ報告スルト云フコトガ這入りマシタ、ソレカラ其末ニ此法案デアリマス組合會モ公開ニナッテ居リマセヌカラ是モ矢張り衆議院ノ修正デアリマシテ公開ニスル、サウシテ公開ニスル以上ハ管理者ヨリ傍聴ヲ禁止スルコトモ出來ル、又必要ノアリマシタ節ハ議長ニ於テ傍聴ヲ禁止スルコトモ出來ル、又議員三人以上ノ發議ガアルトキハ傍聴ヲ禁止スルコトモ出來ル、其三項ニ依ッテ發議者ノアリマシタ折ニハ討論ヲ用ヰズ可否ヲ決スルト云フコトニ修正ガゴザイマシタ、ソレカラ三十四條ニ至ッテ末項ニ「前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ」此法案デハ「府縣知事ト云フコトニナッテ居リマスルガ、是ハ「第一次監督官廳」トナッタ方ガ然ルベキコトト思ヒマス、郡長デナク町村長ガ管理者トナルコトモゴザイマスカラ、サウスレバ知事ヨリモ郡長ガ或ハ聽クコトモゴザイマスルカラ、「第一次監督官廳」ト直ッタ方ガ然ルベキモノト同意シテ是モ其通りガ宜カラウト思フ、ソレカラ又五十一條ニ「舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ムルコトヲ得」是モ即チ五十條ノ組合内ノ一部ニ對シテ利益アルトキノ事件ニ關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲナシタル所モゴザイマス、或ハ其一部分ニ依ッテ賦課スルコトモゴザイマス、其時ハ舊慣ノアルモノハ特別ニ矢張り賦課方法ト云フモノヲ定メナケレバナラヌ、斯ウ云フコトガ地方ニ澤山アルコトト認メマス、此修正モ亦然ルベキ修正ト考ヘマス、以上ノ衆議院ノ修正ハ悉ク委員會ニ於キマシテ賛成同意ヲ表シマシタ、ソレカラ先刻申上ゲマシタ、即チ訴願決定ノコトニ付イテ大臣ノ出席ヲ求メテ委員ノ中ヨリ委シク此度ノ其郡參事會云々ト

云フコトヲ質問イタシマシタガ、大臣ノ答ハ尙ホ前日ノ政府委員ノ答ト格別變ハルコトモゴザイマセヌガ、併シ追々斯ウ云フコトヲ改良シテ行ッテ此方ガ最モ便利デアリ、又改正ノコトハ要用デアルカラ大ニ其考慮中デアルト云フガ如キ答辯モゴザイマシタ、委員ノ者ハ強ヒテ其事ヲ喧マシク言ヒハシマセヌガ、併シ何分唯今申上ゲタ通り、郡參事會トカ縣參事會ノアルモノハ、斯ウ云フ工合ニ無視シタヤウナコトハ甚ダ不都合デアル、且ツドウモ穩カナラヌ、併シ喧マシク申スコトモ、此法案ニ對シテ十分能ク出來テ居ル譯デアリマスカラ、ドウカサウ云フコトハ追々此法案ノミナラズ後來ニ便利且ツ進ンデ行クコトガ委員ニ於テモ望ム譯デアリマスルカラ、此法案ニハ茲デ贊成シテ通スガ、總テノコトハ此目的ニ依ッテ斯ウ云フコトハ、トンチンカンニナラヌヤウナコトヲ希望シテ是カラ、一定ニ事ノ運ンデ行ク、即チ進歩スルコトヲ希望シマス云フコトヲ、委員一同ハ希望ヲ述ベテ今ノ不十分ナ所ハ已ムヲ得ズ沈黙シ、且ツ修正案ニ同意ヲシ、本案ヲ全ク通過サセマシタ譯デアル、尙ホ此外ニ御質問ガゴザイマスナラ、ドウゾ、御答ガ出來ルナラバ致シマセウ、又政府委員ニモ御質問ヲ願ヒマス、是デ報告ハ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○子爵堤功長君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵正親町實正君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 堤子爵ノ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ直ニ第二讀會ヲ開キマス、本案全部ヲ問題ニ供シマス、…全部御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、是デ第二讀會ヲ終リマシタ

○男爵金子有卿君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○子爵堤功長君 賛成

○男爵南岩倉具威君 賛成

○大谷嘉兵衛君 賛成

○岩村兼善君 賛成

○男爵關義臣君 賛成

○田中芳男君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

〔其他〕賛成ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 金子男爵ノ直ニ第三讀會ヲ開クト云フ説ニ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、…本案御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十三、鹽專賣法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、船越男爵

鹽專賣法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

右特別委員長代理

男爵 船越 衛

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔男爵船越衛君演壇ニ登ル〕

○男爵船越衛君 鹽專賣法中改正法律案ノ報告ハ委員長ガ致サレル筈デゴザ

イマス、然ルニ委員長副委員長トモ支障ガゴザイマシテ、差障リガゴザイマシテ報告ガナリマセヌ、依ッテ委員長ヨリ囑託モゴザイマシタガ、第一、委員會ニ之ヲ諮リマシテ、委員會ノ決議ヲ以テマシテ即チ拙者ガ委員會ノ經過ヲ報告スルコトニナリマシタ、玆ニ報告ヲ致シマス、本法ハ去ル明治三十八年ニ此鹽專賣法ガ出來マシテ、出來マシタガ御承知ノ通り軍事勿忙ノ間デアッテ、専ラ簡便ヲ主トシタ等ヲ以テ色々法律ニ缺點モアルヨリシテ、時ニ所ニ依ルト鹽ハ直段ノ廉イ所モアルガ、所ニ依ルト大イニ騰貴シテ動モスルト一升ガ十三錢十四錢ト云フヤウナ時モアッテ、甚ダ宜シキヲ得ヌ、ソレユエ政府ニ於キマシテ色々考案ノ末、即チ三十九年三月、鹽價制限ニ關スル法律ガ出マシタ、ソレニ從ヒマシテ大藏大臣ガ必要ト認メタトキニハ鹽ノ販賣業者ノ鹽ヲ賣ル直段ヲ制限スルト云フヤウナ省令ヲ設ケマシタ、其他ニモ鹽ノ買入、賣渡規則ト云フ様ナモノモ出來テ、大分鹽價ノ平均ヲ得ル様ニハナリマシタ、併ナガラマダソレデモ全ク宜シキヲ得タトハ行カヌ、ソレユエ此度法律ノ宜シカラヌ所ヲ削リ、或ハ至當ト思フ所ノ條ヲ増サレテ、即チ本案ヲ提出サレタ譯デゴザイマス、委員會ハ去ル二十三日ニ開會イタシマシテ、當局者即チ濱口局長ガ法案ノ趣旨ヲ辯明ニナリ、誠ニ親切ニ委シク説明ニナリマシテゴザイマス、ソレデ此重モナル改正ハ第十七條ノ二デゴザイマシテハ鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル鹽元賣人若ハ鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ヌ、之ヲ今度加ヘラレタ、是ハ是マデハ誰ニデモ望ミ人ニハ鹽ヲ勝手ニ賣ルト云フコトニナッテ居リマスガ、然ルニ問屋或ハ小賣人元受人等ニ付イテ甚ダ不都合ニモ直段ガ皆均一ニナッテ居ルユエ問屋ナドハ甚ダ困難ヲシテ苦情モ少カラヌ、是デハ商賣ノ原則ニモ反スルト云フコトカラ此條ヲ此度加ヘラレタ、又第十九條ニ於キマシテ、左ニ掲クル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ云々、サウシテ此左ニ掲ゲテアル一、二ト云フモノハ是マデモ今日ノ法律ニモゴザイマシテ、少々ノ字句ヲ修正シタノデアアル、第三ノ「前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ」ト云フコト、又「前條」云々、此條ガ新ニ加ハッタノデ、此第三ト云フモノハ鹽ノ賣買人ガ或ハ不當ノ價格デ賣捌クヤウナコトガアッタ節ニハ是ハ政府ノ命令デ定メルト云フコトデアアル、ト申スノハ鹽ヲ買入レル者ニ至ッテハ醬油屋トカ、漁業者トカ云フ者ハ一回ニ多量ノ鹽ヲ買フコトガアル、ソレヲ不當ノ價格デ賣ルト云フコトガアッテハ甚ダ其當業者ガ困難ヲスルカ

ラ、政府ガ命令デ至當ナコトヲセヌケレバナラヌカラ第三號ヲ加ヘラレタ、又次ノ「前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ」云々、是ハ即チ未文ニアル「命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス」、是ハ外國へ輸出シタル者ニ對シテハ、元ト代價ヲ拂ウテ賣タモノヲ輸出スレバ交付金ヲ下付スルコトニナッテ居リマス、其外第二十條ヲ削リマシタ、是ハ鹽ヲ賣ルニハ制限ガアッテ幾ラ以上デナケラネバ賣ラヌト云フ、即チ第二十條ニ今日制限ガアルノデゴザイマス、是ハ甚ダ宜シクナイ、幾ラデモ賣ッテヤルヤウニ便利ニシテヤルト云フノガ此二十條ヲ削ッテ趣旨デアッテ、至極至當ナコトト考ヘル、其次ノ第三十條ノ三八新ニ加ハッタ、是ハ即チ罰金等ノ事、其外「賣捌業」ト云フコト、是マデ「賣買業」トゴザイマシタノヲ「賣捌業」トサレマシタ、其外二十條、二十一條二十二條、皆サウ云フ字句ヲ換ヘルダケノヤウデ、ソレカラ附則ニ至リマシテ、月日ノ修正、是ハ衆議院デ修正、即チ今日ノ本案ニナッテ居マス、此月日ノ衆議院ノ修正ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテ、サシテ差支ハナイト云フ、斯ウ云フコトデゴザイマス、矢張り衆議院修正通りニ委員會ハ決議イタシマシタ、先ヅ大略本案ヲ提出サレタ趣旨ハ右ノ次第デゴザイマス、尙ホ御質問ガゴザイマスレバ政府委員へ願ヒタウゴザイマス、本會モ既ニ期日切迫シテモウ一日ヲ餘ス位デゴザイマシテ、本案ハ願ハクハ讀會省略ニナリマシテ可決ニナラムコトヲ希望イタシマス、報告旁一言……

○男爵調所廣丈君 讀會省略ニ贊成

○周布公平君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○男爵野田豁通君 贊成

○大谷嘉兵衛君 贊成

○子爵山口弘達君 贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○子爵平松時厚君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 船越男爵ノ讀會省略ノ動議ハ成規ノ贊成ガアッタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、本案ハ可決セラレマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四、公證人法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告……廣澤伯爵

公證人法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 廣澤金次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵廣澤金次郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵廣澤金次郎君 唯今議題ニ上ホリマシタ公證人法案特別委員會審査ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、本案ハ去ル二十日及二十三日ノ兩回開會イタシマシテ、審査ノ結果、政府提出衆議院修正通りニ委員會デハ滿場一致ヲ以テ可決シタ次第デアリマス、會期モ切迫シテ居リマスカラ、成ルベク簡單ニ委員會審査ノ要領ダケ御報告イタサウト考ヘマス、此改正ノ理由ハ公證人規則ト云フモノガアリマシテ、是ハ明治十九年ノ制定デゴザイマス、從ッテ不備ノ點ガ多イノデアリマス、然ルニ世人ハ此頃ニ至リマシテ公證ノ必要ヲ感ジテ從ッテ公證事務ハ非常ニ發達シテ來タノデアリマス、其結果トシテ或ハ公證人ノ競争トナリ、其他種々ノ弊害ガ生ジマシタ結果、ドウシテモ此公證人ノ品位ヲ高メル必要上、之ヲ改正スルノ必要ガアルノデゴザイマス、其次ニ改正ノ理由ト致シマスノハ、此私署證書ノ認證ヲ與ヘルト云フコトガ、此頃必要ヲ益、感ジテ參リマシタニ付イテハ之ヲ公證人ノ職務ニ新シク加ヘマシテ、サウシテ事實證明ノ便宜ヲ與ヘルコトニナルノデアリマス、デ本案ノ改正ニ付キマシテハ司法省ニ於キマシテモ委員會ヲ設ケテ十分審査サレ、且又當業者即チ公證人ノ意見モ十分ニ聽カレテ、是等ノ意見ヲモ參酌シテ茲ニ提出ニ

ナッタンダサウデゴザイマス、此改正ノ要點ダケヲ申上ゲテ置カウト考ヘマスガ、本法改正ノ第一ノ要點ハ公證人ノ權限ヲ擴張シタノデアリマス、即チ公證人ノ權限ヲ擴張イタシマシタト云フノハ個人ガ作成シマシタ私署證書ニ認證ヲ與ヘルト云フ件デアリマス、是ハ即チ色ミノ證書ノ事實ノ證明ヲ與ヘルト云フコトヲ公證人ノ權限ニ與ヘタノデアリマス、ソレカラ斯ウ公證人ノ權限ヲ擴張シマスルト同時ニ、本案改正ノ結果トシマシテ、公證人ノ資格ヲ高メ、且ツ身元保證金ノ如キモ其額ハ舊法ニ比較シマスト、餘ホド高メテアルノデアリマス、第二ノ要點ハ公證人ノ職務執行ノ區域ヲ擴張シタノデアリマス、是マデハ公證人ノ區域ト云フモノハ、受持區域ガアリマシタノデアリマスガ、之ヲ裁判管轄ニ擴張メタノデアリマス、第三ハ證書作成ニ關スル手續ノ改正デアリマス、即チ無能力者、例ヘバ未成年者デアルトカ、或ハ准禁治産者ニシテ證書作成ノ場合ニ於キマシテ危險ガアル、其危險ヲ豫防スル目的デ此證書作成ニ關スル手續ノ改正デアリマス、是ガ第二十六條、第三十二條デアアル、第四ハ代理人ニシテ證書ヲ作成シタル場合ニハ私署證書ノ委任狀ヲ嚴重ニ取締ルコトデアリマス、第五ハ外國人、聾者、又ハ啞者ノ公正證書ヲ作成スル場合ニハ是ニ通事ヲシテ立會ハシムル手續ヲ設ケタノデアリマス、第六ノ要點ハ私署證書ノ認證ヲ與ヘルト云フノガ、是ハ第五章全部デアリマシテ、是ハ舊法ニ無イ、全ク新設ノ章デアリマス、ソレカラ是等ノ事實ノ證明ト云フコトニ至リマシテハ、人民ニハ是マデノ公證人規則ニ比較スルト非常ニ便利ヲ與ヘタモノデアリマス、第七ノ要點ハ公證人ノ監督ヲ嚴重ニ致シ、而シテ懲戒ノ實ヲ舉ゲルト云フノガ本案改正ノ第七點デアリマス、第八ハ若シ公證人ナキ場所ニ於キマシテ通常區裁判所ヲシテ公證人ノ手續ヲ執ラシメ、而シテ人民ニ便宜ヲ與ヘルト云フノガ第八ノ點デアリマス、デ重モナル改正ノ要點ハ斯ク申シマシタ八點デアリマス、デ逐條ニ付キマシテ申上ゲマシレバ九十五箇條モアリマスコトデアリマスシ、大分長イ時間ヲ要シマスカラ、且ツ速記録モアリマスルコトデアリマスカラ、是等ハ茲ニ省略イタス積リデゴザイマス、此衆議院ノ修正ニ付イテ尙ホ一言申上ゲテ置キマスガ、此衆議院ノ修正ト申シマスルモノハ、公證人ノ希望ノ一部ヲ容レテ修正デアリマシテ公證人カラノ希望ト云フモノガ、衆議院ノ修正ノ意見デアリマス、マダ希望ノ點モ澤山アリマシタノダサウデアリマスケレドモ、政府ニ於テ容レテ宜シイト云フ範圍内ニ於テ當業者ノ希望ヲ容レタノガ即チ此衆議院ノ修正ニ依

テ現ハレタノデアリマス、デ斯ノ如キ案デアリマスカラ：九十五箇條モアル案デアリマスカラ、一々説明ヲ申上ゲマスト大分長クモナリマスカラ、若シ御質問デモアリマスレバ、本員ニ於テ答ヘ得ル限リ答ヘマスガ、尙ホ委シイ所ノ御尋ネハ政府委員ニ御質問アラムコトヲ希望イタシマス
 ○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モ無イヤウデアリマスカラ本案ノ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○伯爵廣澤金次郎君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵堤功長君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成

○大谷嘉兵衛君 贊成

〔其他〕贊成〔ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開クト云フ廣澤伯爵ノ動議ニ對シテ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開キマス、本案全部ヲ問題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 全部、特別委員長報告通り御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、是デ第二讀會ハ終リマシタ

○伯爵廣澤金次郎君 直ニ第三讀會ヲ開キ確定セラレムコトヲ希望シマス

○周布公平君 贊成

○子爵堤功長君 贊成

○谷新助君 贊成

○岩村兼善君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認めマス

○議長(公爵德川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、... 本案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認めマス、本案ハ可決セラレマシタ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十五、在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、第十六、府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、清棲伯爵

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 清棲 家教

貴族院議長公爵德川家達殿

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十四日

右特別委員長

伯爵 清棲 家教

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵清棲家教君演壇ニ登ル〕

○伯爵清棲家教君 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案ノ

委員會ノ審査ノ結果ヲ申上ゲマスル、此法案ニ對シマシテ委員會ヲ一回開キマシテゴザイマスガ、前キニ外務大臣ガ當席デ御演說ニナリマシタ如ク、南滿洲鐵道會社ノ附屬地ニゴザイマス所ノ日本人ノ行キマスル所ノ學校ノ職員ニ對シマスル所ノ便宜ノ方法ヲ執ツタノデゴザイマシテ、其土地ニアル所ノ學校職員ノ遺族扶助料及退隱料ト云フモノニ對シマシテハ、一々内地ノ方ニ照會ヲシマシテ、文部大臣並ニ外務大臣ノ方ヘソレヲ出サナケレバナラヌト云フ手數ガゴザイマスカラ、其手數ヲ省クガ爲ト、一ツハ事務ヲ敏捷ニスルガ爲ニ、此法案ヲ設ケマシテ此土地ノ官憲ニ是ダケノコトヲ委任スル、斯ウ云フ所ノ便宜ナル法案デアアルノデアリマス、是ハ單リ此南滿洲鐵道會社ノ附屬地ニアル所ノ諸學校ノミデゴザイマセヌ、現ニ朝鮮ノ如キモ矢張り總督ニ是ダケノ權限ガ委任シテアルト云フコトデゴザイマス、故ニ委員會ニ於キマシテハ至極當局者即チ職員ニ對シテ至極便利ナル方法デアッテ、且又事務ヲ敏捷ニスルト云フコトニ至ッテ何等ノ異議ガ無イコトデアルカラ、サウ云フコトヲ以チマシテ全會一致ヲ以チマシテ此法案ヲ可決スベキモノト議シタ次第デゴザリマス、此段ヲ申上ゲマス、次ニ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案、是ハ現行法ニアル所ノ即チ不備ヲ補ウタコトデアリマスルシ、且又一ツハ他ノ缺點ノアル所ヲ補フ、且又事實ニ於キマシテ不都合ト認めタ所ヲ改正ラシタノデゴザイマス、其要點ヲ一二申上ゲマスレバ「第五條第一項ヲ左ノ如ク改ム」ト云フコトデゴザイマスガ、即チ是ハ三ツニ區別ヲシテ十五年勤績ヲシタ者ニ對シマシテハ即チ百分ノ二十五ヲ給スルト云フコトニナッテ居ル、ソレカラ今一ツハ滿十五年以上勤績シタ者ニ對シテハ其十五年ト云フモノヲ控除シテ、サウシテ十五年以上、即チ一年一年毎ニ百分ノ一ツツヲ加ヘテ行ク、斯ウ云フコトニシタノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ切レ切レニ在職ヲシテ、サウシテ遂ニ其相當ノ年限マデ至ルモノニ對シマシテハ、即チ此百五十分ノ一ヲ加ヘテヤル、即チソレハ滿四十年ニ至ッテ加算シテ行クコトハ止メルノデアアル、斯ウ云フコトニ致シマシテ、此事實ニ於キマシテハ其職員ガ四十年ニ至リマシテ受ケル所ノ退隱料及扶助料ト云フモノハ現行法ヨリハ大ニ其受クベキ人ニ對シマシテハ金額ガ殖エテ居ル、併ナガラ其國庫カラ支出シマスル上ニ於キマシテハ大シテサウ云フ差ハ生ジナイ、斯ウ云フコトニ致シマシテ、勤績スル者ノ爲ニ永ラク其職務ニ從事サスルト云フコトノ方法ヲ一ツハ執ルト云フコトニナルノ

デゴザイマス、ソレカラモウ一ツノ要點ト致シマスノハ、公立學校職員ニシマシテ教育事務ニ從事シテ居ル文官ガ或ハ他ニ轉任ヲシタ爲ニ、前ニ勤續シテ居ッタ所ノ年限ガ消滅スルト云フヤウナコトガ今日デハアリマスカラ、サウ云フコトノ無イヤウニ矢張り勤續シタ者ハ公立學校職員デアッテ、他ノ教育ノ事務ニ從事スル爲ニ轉任スル者ニ於キマシテハ、矢張り其勤續シタダケノ年限ハ計算シテ相當ノ遺族扶助料ヲヤル、斯ウ云フコトノ法案ニナッテ居ルノデゴザイマス、其他多少變ッテハ居リマスルガ、要スルニ學校ノ職員即チ教員ガ成ルベク其職ニ安ンジマシテ、永ラク教育事務ニ從事スルト云フコトノ方法ヲ執ッタノデゴザイマシテ、教育者ニ對シマシテハ至極保護ヲ與ヘ、且ツ十分ニ勤續ヲシ十分ニ働クト云フ所ノ途ヲ立テタルニ過ギナイノデアリマス、其他小サナ改正、或ハ修正ハゴザイマスルガ、餘リ錯雜ニナリマスルカラ要領ダケヲ申上ゲマシテ、尙ホ御質問ガゴザイマスレバ、承知イタシテ居リマスル限リハ申上ゲルコトニ致シマシテ、要點ダケヲ申上ゲタ次第デゴザイマス、斯ノ如キ法案デゴザイマスルガ爲ニ、委員會ニ於キマシテハ是亦全會一致ヲ以チマシテ可決スベキモノト議了シタ次第デゴザイマス、此段ヲ申上ゲマス、此兩案トモ前ニ申上ゲタ如ク至極簡單ナ法案デゴザイマスルカラ、讀會省略ヲ以チマシテ御議決アラムコトヲ希望イタシマス

- 黒岡帶刀君 賛成
- 辻新次君 賛成
- 男爵石黒忠惠君 賛成
- 伯爵大原重朝君 賛成
- 子爵大田原一清君 賛成
- 男爵松平正直君 賛成
- 大谷嘉兵衛君 賛成
- 男爵野村素介君 賛成
- 伊澤修二君 賛成
- 南郷茂光君 賛成
- 田島竹之助君 賛成
- 周布公平君 賛成
- 議長(公爵徳川家達君) 清棲伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアツタト認メマス、清棲伯爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立起者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案トモ特別委員長ノ報告通りデ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十七、地方税制限ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、正親町伯爵

地方税制限ニ關スル法律案
右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十四日

右特別委員長
伯爵 正親町 實正

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ修正、ハ削除ノ符號〕

第一條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣、沖繩縣ノ區及町村
附加税ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ二十五

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 每地目平均金四十錢
附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ

地租額百分ノ二十五ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體
附加税ノミヲ課スルトキ 地租百分ノ十五

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付 每地目平均金四十錢
附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ

地租額百分ノ十五ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ營業稅附加稅ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣

營業稅百分ノ十

二十五

二 其ノ他ノ公共團體

營業稅百分ノ十五

三十五

第三條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一 北海道、府縣

所得稅百分ノ十五

三十五

二 其ノ他ノ公共團體

所得稅百分ノ十五

三十五

第四條 府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限り府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限り課稅スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ十分ノ四以内ニ於テ課稅スルコトヲ得

乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ十分ノ四以内ニ於テ課稅スルコトヲ得

左ニ掲グル場合ニ限リ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一 內務大臣兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 非常ノ災害ニ依リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各稅目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル

前三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本法ノ附加稅ハ非常特別稅法ニ依ル増徴額ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ス

第六條 本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附則
本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中ニ關スル制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

〔伯爵正親町實正君演壇ニ登ル〕

○伯爵正親町實正君 本案ノ特別委員會ニ於キマスル經過、竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、御報告ニ先ダチマシテチヨット印刷ノ誤リガゴザイマスカラ申上ゲマス、此修正ノ報告ノ所ニ第五條ノ第二項「左ニ掲グル場合ニ於テハ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ課稅」ト云フ所ノ「シテ課稅」ニ削除ノ棒ガゴザイマスガ、是ハ削除デハゴザイマセヌ、活キテ居リマスノデ、矢張り「第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得」ト斯ウナルノデアリマス、チヨットサウ御承知ヲ願ヒマス、本案ノ委員會ハ去ル十四日以来、五回開キマシテゴザイマス、然ルニ此案ニ付キマシテハ隨分質問モ多クゴザイマスシ、且又議論モ隨分喧マシイ議論ガゴザイマシテ、隨分面倒ナ錯綜シタ委員會デゴザイマシタ、併ナガラソレヲ一々本席ニ於テ申上ゲマスレバ隨分時間モ要シマスシ、會期切迫ノ今日デゴザイマスカラ、成ルベク要點ダケヲ摘ンデ簡單ニ御報告申上ゲル考デゴザイマス、本案提出ノ理由ハ、政府委員ノ説明ニ據リマス、現行制度ニ於キマシテハ御承知ノ通り非常特別稅ノ爲ニ地方稅ノ地租其他ノ附加稅ノ大ニ輕減サレマシテアルノデアリマシテ、ソレハモウ諸君ハ御承知ノ如ク何分アノ戰時ニ際シマシテ非常ノ戰費ヲ要スル場合デアリマシタカラ、大概ノ地方ノ事業ト云フモノハ殆ド犠牲ニ供シテモ已ムヲ得ヌコトデアッタ、成ルベク戰費ノ充實ヲ計ルト云フ精神カラ、アノ制限ヲ加ヘラレタノデアリマス、併ナガラ最早今日平和克復ニ至リマシタニ付テハ、イツマデモ斯ノ如ク地方ノ經費ヲ節減シテ緊縮サセテ置ク譯ニモ行カズ、又戰後ノ今日、段々地方ノ事業モ勃興ノ傾キアリ、又今日マデ制限ノ爲ニ色々必要ノ事業モ中止シタリ、或ハ見合セタリ色々シテ居ルコトデアルニ付イテハ、最早今日平和ノ時代ニナッタ以上ハ、追々斯ノ如キ事業モ伸張ヲ計ラナケレバナラス、又今日國費膨張ノ節ニ於テハ地方ノ財力ヲ養成スル爲ニモ色々必要ノ事業ハ發達セシメナクテハナラス場合デアアル、然ルニモ拘ラズ今日非常特別稅ノ如キ窮屈ナル制限ノ下ニ置イテハ如何ニモ其目的ガ達セラレヌ譯デアルカラ、今日ニ於テハ幾分此制限ヲ緩メテ、サウシテ地方ノ事業ヲヤラナクテハナラス、殊ニ此

事業ノ中デモ教育費ノ如キニ至ッテハ、謂ハユル義務教育ノ年限ヲ擴張サレ
タ爲ニ、斯ノ如キニ向ッテモ少カラヌ費用ヲ要スルコトデアアル、其他勸業ナ
リ土木ナリ色々必要ノ事業ガアル、是等ノ目的ヲ達スルニハ、ドウモ今日ノ
制限デハ不十分デアアルカラシテ、幾分ノ制限ヲ緩メナケレバナラヌ、故ニ本
案ヲ提出シタ譯デアアル、ソレデ元、此戰爭前ニ於キマシテハ此地租ト戸數割
トノ比較ト云フモノガ地租六分ニ戸數割ガ四分デアアル、若クハ地租七分ニ戸
數割ガ三分ト云フヤウナ兼合ヒデアッタ、是ハ永キ慣例デアッテ、モウ地方
ニズットサウ云フ慣例ガ付イテ居ッタデアアル、然ルニ此非常特別税ノ爲ニ
制限サレタ結果、地租其他ニ課税スルコトガ出來ヌ爲ニ追々此戸數割ノ方ニ
取ルト云フ傾キガアル、ソレハ殊ニ此戰後ニアッテハ段々如何ニ財源ガ無イ
ト云ウテモ、サウイツマデモ事業ヲ廢メテ置ク譯ニイカヌカラ、差向キノ事
業其他ニ於テハ段々著手シテ來タモノガアル、併シナガラソレ等ハ費用ノ出
ル所ガ無イカラ已ムヲ得ズ戸數割等ニ課ケ、若クハ地方債ニ依ル、或ハ協議
費ニ依ルト云フヤウナコトニナッテ居ル、ソレデ前申ス如ク是マデハ地租ト
戸數割ノ兼合ヒガ四分六、若クハ七分三分デアッタガ、戰後ノ今日ニ至ッハ
殆トソレガ顛倒シテ戸數割ノ方ガ餘計ニナッテ地租ノ方ガ少クナッテ居ルト
云フ状態デアアル、而シテ此戸數割ト云フモノハ餘リ税種トシテハ好マシカラ
ヌ税デアアル、ソレハ比較的貧民ナドニ課税ノ多クナルヤウナ傾キノアル税種
デアアルカラシテ、斯ウ云フモノハ餘リ殖ヤシタクナイノデアアル、殊ニ協議費
ノ如キニ至ッテハ、是ハ謂ハユル協議費デアッテ組長ノ監督モ行届カヌヤウ
ナモノデアアルガ故ニ、是等ノ段々殖エルト云フコトハ益々弊ヲ生ズルモノデ
アル、又地方債ノ如キニ至ッテモ餘力ノ有ルニモ拘ラズ、地方債ニ依ルト云
フコトハ無駄ナ利息ヲ拂フヤウナコトデアッテ、是モ面白クナイ、故ニ此制
限ヲ幾分カ緩メタナラバ追々斯ノ如キ弊ヲ矯正シテ、戸數割等ヲ減ジテ又元
ノ状態ニ復スルヤウナコトニナルデアラウト云フノガ、此法案提出ノ理由デ
ゴザイマス、然ルニ今日ハ非常特別税ニ於キマシテハ此定率ノミニ此税ヲ課
シテ増徴ノ分ニ於テハ附加税ハ課セヌコトニナッテ居リマスガ、併シモウ今
日、非常特別税モ永久税ニナッタ曉デアリマスカラシテ、此法案ニ於キマシ
テハソレヲ改メテモウ一般ニ賦課スルト云フコトニナッタデアリマス、ソ
レガ爲ニ今日地租ノ如キハ非常特別税デハ百分ノ五十ト云フ率ガ百分ノ二十
五ト云フ位ニ減リマシタ、併シ是ハヒドク半分ニ減少シタヤウデアリマスケ

レドモ、右ノ如ク増徴率ニモ一般ニ課カルコトニナリマシタカラ、比較的現
在ヨリハ金ガ課カルコトニナリマス、ソレデ總額ニ於テハ凡ソ原案ニ依リマ
スト現行ノ制限額ニ比ベマスルト一千萬圓バカリノ餘裕ガゴザイマス、ソレ
カラ第五條ノ特別ノ必要アル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ受ケ第一條
乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ、其十分ノ四以内ノ課税スルコトガ出來ルト
云フノガ新ニ加ハリマシタ條項デアリマス、是ハ現行非常特別税ニハゴザ
イマセヌ、併ナガラ是ハ其非常特別税以前ノ法律ハ、御承知ノ如ク制限以外
ハ内務大臣ノ許可ヲ經レバ、是ハ無制限ニ課税スルコトガ出來ルコト
ニナッテ居リマシタガ是デハ十分ノ四以内ト云フコトニ限ラレタ、而シテ此
第二項ニ於キマシテ列舉シテアリマスル斯ノ如キ事項ニ向ッテ、是マデ通り
許可ヲ得レバ無制限ニ許可スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマ
ス、ソレデ先ヅ初ハ此三條ダケノ費用ガアレバ、今日先ヅ地方ノ一ト通りノ
需要ニ應ズルコトガ出來ルデアラウガ、而シテ尙ホ臨時其他ノ場合ニ於テ必
要ガアルナラバ、此第五條ノ一項ダケデアレバ、十分ニ其費用ノ目的ヲ達ス
ルコトガ出來ルデアラウト云フ精神デアリマスノデ、併ナガラ此二項ノ如キ
モノニ至ッテハ、何分要ル場合ニハ非常ニ巨額ヲ要スルモノデアリマスルカ
ラ、ナカナカ十分ノ四や五デハ到底満足ガ出來ヌカラ、是ハ非常ノ場合トシ
テ特ニ茲ニ規定サレタ、是モ矢張り非常特別税ガゴザイマスノデアリマス
ガ、唯少シク異ナリマスルノハ此一號ノ内務大臣ノ許可ヲ得マスト、
負債ノ元利償還ト云フコトデアリマスルガ、非常特別税デハ三十六年以前
ハ負債ノ元利償還ダケニ止メテアリマスルガ、本案ハ其制限ヲ取りマシテ、
舊債ノ償還ト云フコトニナッテ居リマス、大體本案提出ノ理由ハ今申上ケタ
通りデゴザイマス、ソコデ之ニ付キマシテ委員會ニ於テハ、ナカナカ澤山ナ
質問モゴザイマシタガ、是ハ今一々申上ゲルモ餘リ時間ヲ要シマスルカラ、
クダクダシクナリマスカラ、是ハドウカ速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ讓リマ
シテ、尙ホ是カラ申上ゲマス中ニモ略々質問ノ要領ハ段々申上ゲルヤウナコ
トニナラウト考ヘマスル、ソレカラ尙ホ此委員會ニ於キマシテハ文部大臣モ
特ニ出席ニナリマシテ、此教育費ノ必要ト云フコトニ付イテ縷々述べラレマ
シタ、其他内務大臣始メ政府委員モ此質問ニ對シテ種々精密ナ答辯モゴザイ
マシタ、ソコデ此案ニ付キマシテ第一ニ疑點ヲ委員中ニ懷カレマシタノハ、
此案ト云フモノハ、先キニ衆議院ニ提出サレタ税法整理案ヲ基礎トシテ此上

ニ建設サレタ所ノ案デアアルデハナイカ、然ルニ稅法整理案中宅地地價修正案、地租條例中改正案ハ政府ニ於テ撤回サレテ、其他ハ總テ否決サレタノデアリマス、サウシテ見ルト既ニ此案ハ根柢ヲ失ッタ案デアアルガ故ニ、第一根柢ヲ失ッタカラ、ドウモ此儘デハ甚ダ理窟ガ合ハヌコトニナリハシナイカ、ソレデ若シ強ヒテ之ヲ議セムトナラバ、稅法整理案ノ根柢ヲ離レテ現在ノ有様ニ於テ考ヘナクテハナラス、政府ニ於キマシテハ決シテ此案ハ稅法整理ノ案トハ全ク別物デアアル、決シテ稅法整理ニ關係シタコトデナイ、如何トナレバ成ルホド其宅地地價修正ノ如キハ修正ノ出來ルト否トニ於テ個人ノ關係ハ色ミニナツテ來ルコトガアラウカナレドモ、總額ノ上ニ於テ一向變動ハ無イコトデアアル、今日歲入ノ上ニ於テ一向變動ガ無イ、故ニ此率ニ於テモ決シテ差支ノ無イ話デアアル、稅法整理案ハ通過シナイト雖モ、此案ノ通過ニ於テハ何ノ妨ゲナイコトデアアル、併ナガラ論者ハドウモソレハサウ云フヤウニ見ラレヌ、現ニ此地租ノ如キモノハ、宅地地價修正ガ出來ルトノ出來ザルトニ於テハ、非常ナ相違ガアルノデアアル、ソレデ今日宅地地價修正ノ必要ハ何カラ出ヅルト云ヘバ、今日ノ地價ト云フモノハ、段々時世ノ進歩ニ從ツテ、市街其他ニ於テモ非常ナ相違ヲ來タシテ居ルノデアアル、依ツテ此賦課ニ於テモ段々不公平ヲ生ジテ居ルノデアアル、ソレガ爲ニ比較的高キ所ハ廉クシ、廉キ所ハ高クスルト云フノデ、地價修正ノ必要ガアル、ソレデサウ云フ關係ガアリマスルカラシテ、今日宅地地價ノ如キハ非常特別稅ニ於キマシテ、二分五厘ノヲ増徴シテ今日ハ百分ノ二十ト云フ法律、又郡村宅地ニ於テハ百分ノ八デアアル如ク激増イタシテ居ル、故ニ若シ其儘全部地租ニ附加スルト云フコトニナレバ高キモノハ益、高ク、低キモノハ益、低イト云フヤウニ不公平ヲ生ズル、故ニ今暫ク稅法整理ノ出來ルマデハ今日ノ狀態、即チ定率ノミニ此附加稅ヲ課スルコトニシテ、非常特別稅ニ屬スル増徴ノモノハ附加ハシナイト云フノガ穩カデアラウ、然レバ今日ノ不公平ハ不公平ナリニモ其程度ヲ餘程低カラシムル話デアアルカラシテ、尤モ今日ノ場合ハソレガ適當デアアル、併ナガラ宅地地價修正其他稅法整理ニ於キマシテモ、何レ近キ將來ニ提出サレルコトデアアルカラ、ソレマデハ現在ノ程度ニ止メテ置イタ方が適當デアアル、獨リ地價ノミナラズ營業稅、其他ノ整理ガ出來ルト出來ザルトハ大分、率ニ於テモ又個人關係ニ於テモ變更ヲ及ボシテ來ルコトデアリマスカラ、サウ云フモノハ先ヅ暫ク稅法整理ヲ待ツテヤッタラ宜シカラウ、斯フ云フ論ガゴザイマシタ、ソ

レデ第一ニハ先ヅサウ云フ理由ヲ以テ此案ハ本回ハ否決スルガ宜イト云フ論者モ一名ゴザイマシタノデアリマス、併ナガラ其他ハ其理窟デハアルガ、又今日ノ狀態カラシテ現在ノ程度ニ留メテ置クト云フモ餘リ窮屈ノコトデアラウカラシテ、其方法ハ、趣意トスル所ハ、定率ノミニ止メテ、非常特別稅ノ増徴ニハ課ケナイト云フコトニシテ幾ラカ賦課ノ程度ヲ緩メルト云フコトハ必要デアラウ、何分段々地方ノ狀態モ進ンデ來タコトデアアルカラ現在ノ儘デハ餘リ窮屈デアラウ、故ニ大體ノ上カラ大凡一千萬バカリノ増加ヲ見ルノハ差支ナカラウト云フ論モ一ツゴザイマシタ、サウシテ置イテ第五條ノ「十分ノ四」云々ノ一項ダケハ削除シテ仕舞ッタガ宜カラウ、ソレデ前ニ申上ゲ落シマシタガ、此原案ニ依リマスルト三條マデノ制限内ノ率ニ於キマシテ現行ノ稅金額カラ比ベマスト大凡一千萬圓ノ増加ニナル、五條ノ十分ノ四ト云フノデ一千七百萬圓バカリノ増加ニナル都合二千七百萬圓バカリノ増加ニナルデアリマス、ソレデ今申上ゲタ中ノ大凡一千萬圓ノ増加ハ許シテ宜カラウ、併ナガラ二千七百萬圓ノ増加ト云フモノハ、餘リ一時ニ緩ミヲ附ケルト云フコトハ是ハ甚ダ宜シクナイ、ソレデ斯ノ如ク急激ニ増加ヲ來タスト云フコトニナルト各種ノ事業ノ勃興ヲ促シ却ツテ財政ノ紊亂ヲ懼レルコトデアアル、又既ニ今日ノ制限内ト雖モ既ニ地方ニ於テ必要ナ事業ハ段々起シツツアル、著手シツツアルノデアアル、其故ハ既ニ四十年度ノ豫算ヲ見ルト三十九年度ヨリ幾ラカ殖エテ居ルト云フヤウナコトデアッテ、極ク餘儀ナイ事業ハ今日デモ著手シツツ居ルノデアアル、ソレデ勿論是等ノ財源ハ或ハ戶數割ニ依ツテモ居ルニ違ヒナカラウガ、サリトテ今茲デ此費用ヲ緩カニシタカラト云ウテモ政府ノ望マレル如クニ戶數割ノ方ヲ減ジテ地租割ノ方ヲ増シテ元ノ四分六分ト云フヤウナ狀態ニ復スルト云フヤウナコトハ、必ズ出來ルナラ宜イカモ知レヌケレドモ事實上、決シテサウ云フコトハ出來ルモノデハナイ、今日殖エタ戶數割ハ其儘ニナツテ而シテ今度増徴サレルダケノモノト云フモノハ新ニソレダケ増額ヲ來タス結果ニナルニ違ヒナイ、故ニ斯ノ如キ賦課ノ増徴ト云フモノハ却ツテ地方ノ爲ニ宜シクナイ、新ニ地方ノ負擔ヲ増スト云フコトニナツテ甚ダ宜シクナイ、故ニ今暫クハ少シク緩ミヲ取レバソレデ十分デアラウト思フ、又教育費云々ノコトモアルケレドモ、是ハ其範圍内デ地方當局者ガ施設ノ宜シキヲ得レバソレデイカヌコトハアルマイト信ズル、斯ウ云フ論デアリマス、ソレカラ今一ツハ原案ハドウモ是ハ已ムヲ得ナイノデアアル、今日ノ場合ドウ

モ此附加税ノ増加モ已ムヲ得ナイコトデアアル、又非常特別税ト云フモノハモ
ウ既ニ永久税ニ變ジタ今日デアアルカラ定率ノミニ課シテ置クト云フノハ甚ダ
面白クナイ、故ニ矢張り原案ノ如ク一般ノ地租ニ附加スルト云フコトハ頗ル
公平デアアル、併ナガラ原案ノ如クデハ餘リ一時ノ増加ニ過ギルコトデアアルカ
ラシテ少シク修正ヲ加ヘテサウシテ通過サシタラ宜カラウ、ソレハ此五條ノ
十分ノ四ト云フノヲ十分ノ二クラ非ニ止メテ、サウシテ尙ホ地租ノ方ニモ少
シク減ズル、サウシテ此案ヲ通過サセルガ宜シイト云フ論モアリ、ソレカラ又
第五條ノ特別制限超過ト云フモノノ十分ノ四ト云フモノハ、是ハ必要デモア
ラウガ、併ナガラ此道府縣等ニ於テハ此必要モナカラウ、ノミナラズ又道府縣
ノ事業ト云フモノハ比較的大キナ事業ヲスルカラ濫費ノ虞レモアルカ知レヌ
ガ其他ノ、府縣以外ノ公共團體ニ於テハ事業モ小サクアルシ、サウシテ町村自
ラガ經營シテ居ルコトデアアルカラ、ソウ格別ナ無法ナコトヲスル氣遣ヒモア
ルマイカラシテ、此十分ノ四ト云フ制限外ハ府縣以外ノ公共團體ニダケ許ス
コトニシテ置イタラ却ッテ宜シキヲ得ルコトデアラウ、ソレカラ第一號ノ負
債ノ償還デアリマスルガ、是ハ矢張り三十六年以前ニ起シタル負債ニ限ル、サ
ウシテ其他ハ二號カラ四號マデノ列記ニ限ルト云フコトニシタイト云フ修正
説モ出マシタ、丁度四通リ、バカリノ修正説ガ出タノデアリマス、ソコデ委員ニ
於テハ抄取りノ爲ニ五名ノ小委員ヲ選ビマシテサウシテ之ニ修正ノ審議ヲ付
託イタシマシテ、五名ノ小委員ニ於テ審査ノ結果、唯今御手許ニ差出シタ通
リ修正ニナリマシタノデゴザイマス、ソレデ簡單ニ此修正ノ理由ヲ申上ゲマ
ス、第一條ノ「北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體」云々トアリマス中
ノ「市町村」ト云フ字ヲ削リマシタ是ハ深イ意味ノアル譯デアアリマセヌガ、
此所ニ「市町村」トアリマシテ「其ノ他ノ公共團體」トアリ、又第二號ノ所ニ
其ノ他ノ公共團體ト云フコトニナッテ居リマス、ソレカラ二條モ三條モ總テ
サウ云フコトニナッテ居リマスカラシテ、此一條ノ一項ヲ見マスト「市町
村其ノ他ノ公共團體」トアリマスカラシテ、二號其他ノ公共團體ト云フト市
町村ハ外デアアルカ、或ハ市町村モ公共團體ニ入ッテ居ルカト云フコトガチヨ
ット紛ハシイコトニナリマス、勿論市町村モ入ッテ居ルニハ相違アリマセヌ
ガ、文章ノ體裁上少シモ紛ハシイコトデアリマス、又此市町村ヲ削リマシタ
所ガ北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ト書ケバ市町村ハ無論其中ニ入ッテ居ル
ト云フコトハ決マッタコトデアリマスカラ、紛レナイ爲ニ「市町村」ト云フ字

ヲ削リマシタ、他ニ深イ意味ノアル譯デアアリマセヌ、ソレカラ「地租百分
ノ二十五」ト云フノヲ「六十」ト變ヘマシタ、是ハ「チヨット順序ヲ間違ヘ
マシタガ、五名ノ小委員ニ於キマシテ前キニ色ミゴザイマシタ修正ノ案ニ就
イテ研究ノ結果、非常特別税ノ増徴ヲ省イテ矢張り定率ニ課スル方ガ宜シイ
カ、又ハ定率ニノミナラズ非常特別税ノ増徴ニモ一般ニ課スルガ宜シイカ、
之ヲ先決問題トシテ決メマシタ所ガ、小委員會ニ於キマシテハ矢張り非常特
別税ノ増徴ヲ除イテ定率ニ課スルノガ至當デアルト云フコトニ決マリマシ
タ、從ッテ其主義ニ據ッテ此修正案ガ出來マシタノデゴザイマス、ソレデ此
租百分ノ二十五」ガ「地租百分ノ六十」ニ變ハリマシタノハ全ク其結果デゴザ
イマス、定率ニ課スルコトニナリマスト現在ハ五十デアリマスガ、原案ノ二
十五ニ相當スルモノニ致シマスレバ六十ナルノデアリマス、ソレカラ「此
附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額百
分ノ二十五」トアル此「二十五」ガ矢張り「六十」ニ變ハリマシテ、ソレカラ「其
ノ他ノ公共團體、附加税ノミヲ課スルトキ地租百分ノ十五」是ガ「四十」ニ變
ハリマシタ、ソレカラ第二條、イヤ其前ニ「地租百分ノ十五」トアッタノガ矢
張り「四十」トナリマシタ、ソレカラ第二條ノ「北海道、府縣、市町村」トアル
此「市町村」ノ三字ヲ削リマシタノハ前ニ申シマシタト同一ノ趣旨ガ削リマシ
タノデアリマス、ソレカラ「營業稅百分ノ十」ト云フノガ「百分ノ二十五」ニ
ナリ、「營業稅百分ノ十五」ト云フノガ「百分ノ三十五」ト變ハリマシタ、ソ
レカラ第三條デモ「市町村」ノ三字ヲ削リマシテ、サウシテ「所得稅百分ノ五」
ト云フノガ「百分ノ十」トナリ、「所得稅百分ノ十五」ガ「三十五」トナリマス、
ソレカラ第五條ノ一項ヲ削リマス、ソレデ此前ニ申上ゲマシタ稅率ノ變更ニ
依リマスルト金高ガドウナルト申シマスルト、原案ト餘リ違ヒマセヌ、原案
ニ比ベマシテ四十四萬六千圓バカリ減ジマス、併ナガラ今日非常特別税ノ現
行ノ額ニ比ベテ見ルト九百六十六萬五千圓バカリノ増加ニナリマス、ソレデ
元ト此修正ノ意味ハ約一千萬圓クラ非餘裕ヲ取ルガ宜イト云フ趣意デアリマ
シテ、ソレデ丁度一千萬圓バカリ裕トリガ付クトニナリマス、ソレカラ第
五條ノ第一項ヲ削リマシタノハ、是ハ前カラ申上ゲマシタ如ク、餘リ急激ノ増
加ハ宜クナイト云フコトデアアル、勿論政府委員ノ答辯ニ依リマスレバ、決シ
テ濫ニ課スルモノデナイ、特別ノ必要ガアッテ萬已ムヲ得ナイトキニ内務大
藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ課スル譯デアアルカラシテ、決シテ濫ニ之ヲ課スルノ

デハナイト云フコトデアル、勿論ソレハソレニ違ヒアリマスマイガ、併ナガラ委員ノ多數ハ既ニ法律ニ於テ十分ノ點マデ許可ヲ得ルト云フコトガ許シテアル以上ハ、假令兩大臣ノ許可ヲ受ケルト云フコトガアリトシテモ忽チニシテ此額ニマデハ賦課スル様ナ結果ニナルデアラウ、故ニ詰リ少シク手數ハ要スルトシテモ、直ニ是ダケノ増加ヲスルノト同ジ結果ニナリハセナイカ、サウシテ見ルト餘リ是ハ過重ノ感ガアルカラ寧ろ全部削除シテモ差支ナカラウト云フノデ削除ニナリマシタ、ソレカラ「左ニ掲クル場合ニ限リ」トアリマシタノヲ「左ニ掲クル場合ニ於テハ」ト致シマシタノハ、是ハ文章ノ體裁上、此方ガ宜カラウト云フダケデゴザイマス、サウシテ其下ノ方ノ「前項ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得」ト云フ所ヲ「第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得」ト修正シマシタガ、是ハ第一項ヲ削リマシタ結果、斯ウ云フコトニ自然ナリマシタノデアリマス、ソレカラ第三號ノ「水利」ト云フ二字ヲ削リマシテ「永久ノ利益トナルヘキ水利事業」ト云フ字ニ換ヘマシタ、是ハ大分ヤカマシイ議論ガ委員會デハゴザイマシテ、唯「水利」ノ爲「ト云フコトニナルト」隨分其範圍ガ廣イモノデアツテ、或ハ堤防ノ腹付ケ上置キノ如キ些細ナ腹付ケ上置キノ如キモノ其他些細ナル經常費ニ屬スベキモノモ、或ハ此方デ使用スル如キ弊ガ生ジテ來ル恐レガアル、ソレデハ甚ダ良クナイカラ此制限外ノ許可ヲ得ル場合ニハ成ルベク大キナ仕事デアツテ、連モ經常費デハ支辨スルコトガ出來ナイト云フ位ノ仕事、謂ハユル永久ノ利益トナルベキ事業ニ限ツテ置クガ宜イト云フ意味デ之ヲ修正イタシタノデアリマス、併ナガラ政府委員ハ之ニ向ツテハ大體ハソレデ宜カラウガ、併ナガラサウ窮屈ニシテ置クト、例ヘバ茲デ僅カナ金ガアツテ、ソレデ腹付ケナリ上置キナリヲスル、ソレヲスレバ本年出水ガアツタ場合ニモ其堤防ガ助カレ、併ナガラ其金ガ無イ爲ニ打ツチャツテ置クトスレバ其堤防ガ破壊スル、サウシタナラバ非常ナル災害ヲ被リ、田畑モ流失シタ上ニ、其後ニ非常ナ災害ニ依ツテトカ、若クハ第三號ニ依ツテ兩大臣ノ許可ヲ得ルト云フノハ、是ハ既ニ遲イ話デアツテ如何ニモサウ云フヤリ方ト云フモノハ施政上甚ダ不經濟ナルヤリ方ト思フカラ、サウ云フモノハ前ニ能ク注意ヲシテ、些細ナ費用デ出來ルナラバソレデ堤防等ヲ救済シテ置ケバ後ニ至ツテ大イナル災害ヲ免レル譯デアルカラ、斯クノ如キハ大ニ施政者ノ手腕ニアルコトデアルカラ、餘リ僅カナ金ヲ儉約スル爲ニ大害ヲ生ズルコトガアルノハ面白クナイ斯ウ云フ反對論モアリマシタ

ガ、併ナガラ論者ハ、ソレハ甚ダ良クナイ、一體サウ云フコトハ詰リ爲政者、行政官其他當局者ノ注意ニ依ルコトデアツテサウ云フコトハ、不斷カラ注意シテ成ルベク實際ニサウ云フコトノ無イヤウニシテ置クガ宜イ、動モスルト餘リ濫ニナルガ爲ニ遂ニハ種々無用ナ費用ヲ使フコトガ起ルノダカラ、ソコラハ當局者ノ大ニ注意スベキコトデアアル、故ニ却ツテ此修正ノ如ク致シタ方ガ便利デアアル、將來ノ爲ニモ此方ガ宜イト云フ意味デアリマシタ、ソレカラ「傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ」ト云フノハ、衆議院デ加ヘラレタノデアアルガ、是ハ委員中ニ於テモ或ハ之ヲ入レル位ナラバ災害ノ豫防其他權衡上マタ入レナケレバナラヌコトガアルカラ是ハ寧ろ削除スルガ宜イト云フ説モゴザイマシタガ、併ナガラ是ハ其前ノ原案ノ如ク、第五條ノ一項ノ様ナ制限外ノ金デモアリマスレバ、ソレハ宜イカモ知ラヌガ今日之ヲ削ツテ窮屈ニナツタノデアルカラシテ、又此傳染病ト云フモノハ、災害豫防其他ニモ成ルホド間接ノ利害ハ權衡ヲ得ナイカモ知ラヌガ、兎ニ角傳染病ナドハ直接人命ニ關係スルコトデアアル、近來「ベスト」ナドガ段々盛ニナツテ避病院ト云フモノノ建設ニモ、ナカナカ地方ハ費用ヲ要スルコトデアアルカラ、是ダケハ矢張り衆議院ノ修正通り存シテ置イタガ宜カラウト云フノデ置クコトニナリマシタ、ソレデ第六條ヲ一ツ加ヘマシタ、「本法ノ附加税ハ非常特別税法ニ依ル増徴額ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ス」ト云フコトヲ入レマシタ、是ハ前ニ申シマシタ趣意デ、非常特別税ノ増徴ハ省キ、定率ノミニ課スルコトニ致シマスレバ、其分ヲ入レマセヌト其趣意ハ達シマセヌカラ之ヲ入レマシタ、ソレカラ附則ハ「非常特別税法中」ノ下ニ「地租、營業税及所得税」ト云フ文字ガ這入ル、少シ諄シキヤウデアリマスガ、非常特別税法ノ二十二條ニ「第二條ニ依ル地租、營業税、所得税及鑛區税ノ増徴額ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス」ト云フコトガアリマシテ、鑛區税ト云フコトガ這入ツテ居リマス、之ヲ入レマセヌト、此鑛區税モ共ニ之ヲ廢スルヤウナコトニナリマスカラ、少シク權衡ヲ失シマスデ、鑛區税ノコトハ何モ此中ニゴザイマセヌカラ、此鑛區税ニ關スルコトハ矢張り非常特別税中ニ殘シ置キマシテ、此法律ハ單ニ地租營業税及所得税ニ關スル地方税ノ制限ノ規定ヲ廢スル、斯ウ云フノミノコトニ致シマシタ、大分長クナリマシテ御分リ兼ネマシタカ知レマセヌガ、先ヅ委員會ノ模様ハ大體斯様ナコトデゴザイマシタ、成ルベク簡單ニ存ジマシタカラ、或ハ要領ヲ失シマシタカモ知レマセヌガ、御分リノゴザイマセヌ所ハ御質問ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モ無イヤウデゴザイマスカラ、採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○伯爵正親町實正君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵萬里小路通房君 賛成

○男爵松平正直君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ二讀會ヲ開クト云フ正親町伯爵ノ動議ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、特別委員長ノ報告ヲ可トセララル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 是デ第二讀會ハ終リマシタ

○伯爵正親町實正君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○田中芳男君 賛成

○男爵松平正直君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開イテ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、本案全部御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、本案全部御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、本案全部御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開キマス、本案全部御異存ゴザイマセヌカ

マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、休憩ヲ致シマス

午後零時二十五分休憩

午後一時二十五分開會

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス

○子爵新莊直陳君 唯今カラ官吏恩給法中改正法律案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマス、退席イタシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 新莊子爵ノ特別委員會へ退席ノ要求ハ許可イタシテ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○侯爵大炊御門幾鷹君 明治三十九年度豫備金支出ノ件外六件ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスガ、退席イタシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 大炊御門侯爵ノ委員會へ退席ノ要求ハ許可ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○徳久恆範君 御差支ゴザイマセヌナラバ唯今カラ産業組合法ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスガ、

○議長(公爵徳川家達君) 徳久君ノ委員會へ退席ノ要求ヲ許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八、家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、谷子爵

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八、家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、谷子爵

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八、家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、谷子爵

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

右特別委員長

子爵 谷 干 城

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔子爵谷干城君演壇ニ登ル〕

○子爵谷干城君 唯今問題ニナッテ居リマスル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、是ハ御承知ノ通りモウ幾度モ出ル案デゴザイマシテ、私モ前ニ一度此案ニハ委員ノ一人ニ選バレタ者デゴザイマス、此二十日ノ日ト思ヒマスルガ、委員會ヲ開キマシテ反覆審議ノ上、尙又政府委員ノ説明モ承ハリマシタ、其日ハソレデ先ヅ休ミニ致シマシテ、二十三日ニ再ビ開キマシタ、サウシテ決了イタシマシテ今日御報告ヲ申スト云フコトニナリマシタ、其結果ハ贊成者即チ此案ヲ可トスル人ガ四人、此案ニ反對スル人ガ三人デゴザイマシタ、總テノ出席ハ八人、私ハ委員長ノ席ニ居リマシタカラ可否共ニ加ハリマセヌ、サウ云フ結果デ一人ノ多數デ可決スベキモノト決シマシテゴザイマス、大體ノ所ヲ先ヅ申上ゲテ置キマス、ソレデ此願書ト云フモノハ固ヨリ皆様ノ御手許ニモ出テ居ルデアリマセウ、又私ノ手許ニモソレ參ッテ居リマスル、ソレデ皆サンノ御説ヲ伺ヒマシテモ、確トシテ是ハ實ニ不感デアル、是ハ氣ノ毒デアルト云フコトヲ委員席ニ於テ御明言ノアリマシタ御方ハ承ハリマセヌデ詰リ數アルコトデヤカラ其中ニハ氣ノ毒ノ者モアラウカラ、兎モ角モ此法律ヲ成立タスルガ宜カラウ、然ラザレバドコドコマデモ矢張り之ヲ繼續シテ行クヤウニナルカラト云フガ贊成ヲナサル御方ノ多數ノ御意見、又之ニ反對ヲナサル御方モ詰リ今日ニ至ッテ斯様ナモノヲ取上ゲル日ニハ種々ノモノガ出テ來ル、出テ來タ結果、是ガ成就ヲスルカト云フニ終ニ成就スル見込ハナイ、縱シ行政裁判所ニ訴ヘタ所ガ成立ツベキモノデナイトスレバ、當ニ此費用ヲ掛ケテ、サウシテソレガ成立セヌ以上ハ誠ニ氣ノ毒ノ譯デアアル、ソレデ寧ソ否決シテ仕舞フガ宜イト云フ御考ノヤウニ委員長ハ承ハリマシタ、ソレデ私モ段々調べテ見マシタガ多數ノ員數ノ擧ガッテ居リマスノハ愛知縣ノ名古屋ノ方ノガ多數デゴザイマス、隨分二百何人ト云フ纏マッテ居リマス、デ併シ是ナドハ私デ見マシテハドウシテモ尤モニ聞エナイ、總テ御承知ノ通り廢藩置縣ノ處置ト云フモノハ、朝廷ヨリ總テ諸藩ハ其藩ノ適宜ニセヨト云フ御沙汰ニナッテ、ソコデ其藩々ニ於テ斯ウシタラ宜カラウ、サウシタラ宜カラウト云ウテ、處置ヲシタノデアアルカラ、決シテ朝廷カラ一様ニ規則ヲ定メテ、ソレニ準據シテヤッタト云フノデアリマセヌカラ、皆ミ腰ダメデカラニ、マアマアココラアタリデ宜カラウト云フコトデヤッタノデアアル、殊ニ一番率先シテ早く始末ヲ付ケテ朝廷ニ成ルタケ御厄介ヲ掛ケナイヤウニト云フ極ク此際ニ封土マデ奉還シタ以上ハ奇麗ニ士族ノ處置マデモ付ケテカラニ御

厄介ヲ掛ケヌヤウニスルノガ當然デアルト云フ考デシタ藩ノガハ、ナカナカ餘ホド苛酷ノ處分ニナッテ居リマス、ソレデ固ヨリ藩主ノマダ藩知事デ居ッタ時ノコトデアリマシタカラ、モウ一言モナク皆ソレニ承服シタケレドモ所ガ今申上ゲル通り藩々適宜ノ處置ト云フ、其適宜ト云フ字ハ千石ノモノヲ五百石ニシテモ適宜ニナル、十石ノモノヲ五石ニシテモ適宜デアアル、ソレデ其藩主デヤッタモノデスカラ朝廷ノ御趣意ヲ順當ニ引受ケテ御爲メデヤッタ方ノ藩ハ勢ヒ苛酷ニナッテ居ル、又等閑ト言ウテハ惡ルイカモ知ラヌガ、因循ニシテ居ッテ終ニ好イ加減ノコトヲ以テカラニ其處置ヲシタト云フノガハ、餘ホド其寛大ニナッテ居ルト思フデス、マア私ドモハ自己ノ藩制ノ改革ニハ幾分カ關係シタ一人デアリマスルガ、ソレラノ事ヲ以テ考ヘルト實ハ餘ホド是ハ苛酷ノ處置デアッタラウト思フ、餘ホド私ドモハ藩ナドハ酷イ目ニ遭ッタノデス、サウ云フ鹽梅デアリマスカラシテ、今日ノ状態カラシテ前ノ明治三四年ノ頃カラ五六六年ニ處置シタコトヲ溯ッテ吟味スルト云フコトハ餘程ムヅカシイ、又公平ヲ得ルト云フコトモ餘程ムヅカシイ、詰リ此不平等ヲ慰シテ立派ニ言フ通りニシテ見タトキニハ其裏ニハ非常ナ其不公平ナコトハアル、又或ハドウ云フ面倒ガ起ルヤラモ知レナイ、併ナガラ是ハモウ今更書面ヲ持出シテ理窟ヲ言フ權利ノ無イコトハ分ッテ居リマスケレドモ、何シロ此苦情ヲ持出シテ居ル方ノ人ノ苦シイヨリハ、一層苦シイノガ他ニアル、斯ウ云フ譯デアアル、ソレデ前ニ私ガ委員ニナリマシタ時ニモサウ云フ理由ヲ以テ同意ヲセザッタガ、ソレヲ今ニモ來ル人ガドウソ贊成シテ呉レト云フコトヲ頻ニ言ヒマスケレドモ、此法律ヲ通スト云フコトニ付イテハ衆議院カラモ來テ居ルモノデスカラ、私ハモウ是ホド喧マシイ苦情ハ通シタ方ガ宜カラウ、併ナガラ氣ノ毒ナガラ、是ガ通ッタカラト云ウテ、其目的ガ達セラレルカト云ウテモ目的ハ達セラレナイト信ジテ居ル、デ固ヨリ是ハ幾度モ出ルコトデアアルカラ皆サン今口クダクダシク申上ゲテモ御面倒デアリマセウカラ、ソレハ申上ゲマセヌ、ソレデ其言ヒ出テ居ル藩ト云フモノガ、舊松山藩、舊名古屋藩、舊福井藩、舊岸和田藩、舊藤堂藩、舊奥平藩、ソレカラ舊久居藩、舊岩國藩、舊大野藩、舊松本藩、鹿兒島藩、是ハ私ノ手許ニ出テ居ルノガソレ程デアアル此調ベヲ視テ見マスト政府ノ處置ト云フモノガ甚ダ宜シクナイ、殊ニ此一旦一千萬圓ト云フ金ヲ計算シテ議會ノ協贊ヲ經タナドト云フヤウナコトガ誠ニ政府ノ處置ガ宜シクナイ、斯ウ云フコトヲセネバ諦メル時期モアリマス

レドモ、ヤルガ如クニシテサウシテ計算シテ見ルト僅ニ三十萬カ四十萬カノ金ニ止マッタノデ今ニ是ガ喧マシイ、ソレデ畢竟斷然ト初メニヤリサヘスレバイケルノデアアルガ、ソレガ士族ヲ怖デタト云ウテ宜イカ、何ト云ウテ宜イカ餘ホド處置ガスルイ、尤モ明治八年、九年ノ時分ノコトハ私モアノ時分ノ時勢ハ能ク知ッテ居ル、大久保内務大臣ノ處置セラレタコトモ、九年ノ處置ニ大久保公ノ名前モ出テ居リマスガ、其時ニハ御承知ノ通り一方ニハ神風連ノ騒ギノアル時デアリ、且又十年ノ戰爭モ、ハヤ向フニ臨ンデ居ルト云フノデ、士族ト云フモノノ勢ヒハナカナカヒドカッタ、ドンナコトニナルヤラ知レヌト云フ理窟デ政府モ斷然タルコトガ出來ナカッタノハ、是ハ時勢ノ然ラシムル所デアアル、今日決シテ政府ノ處置ガ惡ルイトハ云ヒマセスケレドモ、既ニ國會ノ開ケテカラ後ニ一十萬圓ヲヤルヤウナコトヲシタノハ最モ宜クナイ、併ナガラ今日ハ今申上ダタ通り否トスル人ガ三人、是トスル人ガ四人、即チ多數デ之ヲ通過スルガ宜カラウト云フコトニナッテ居リマスル、ソレデ其御方モ是ガ適當デアアルカラ此法律ヲ通過スルト云フニアラズシテ、兎モ角モ今マデノ宿題デ喧マシイ問題デアアルカラシテハ、行政裁判所ヘ訴ヘルダケノ途ヲ啓イテヤルガ宜カラウ、斯ウ云フ譯デアリマス、ソレデ私モ此申出デニハ同意ガ出來ナイケレドモ、行政裁判ノ途ヲ明ケテヤルト云フダケハ宜カラウト考ヘル一人デアリマス、デ諸君ニ於カレマシテモ十分ニ御勘考ニナリマシテ、願人ニ對シテハ後日ノ悔ヲ遺サヌヤウニ、又政府ニ於テ累ヲ長ク遺サヌヤウニ、宜ク何トカ御考ヘニナッテ、之ヲ御決シナサレムコトヲ私ハ希望シマス、其委細ノ所ハ政府委員ノ説明ガ誠ニ明瞭デアリマスルカラシテハ、委シウ御聽キナサレタイナラバ政府委員ニ御尋ネテ願ヒマス、私ハ委員會デ本案ヲ可決シマシタコトヲ大略申上ゲマス

〔政府委員水町袈裟六君演壇ニ登ル〕

○政府委員(水町袈裟六君) 家祿賞典祿處分ニ關スル法律案此法律案ノ趣旨ハ申スマデモナク事ヲ慎重ニスルト云フコトニアリマスルト考ヘマスルカラ其趣旨ノミニ付キマシテハ政府ハ異見異存ノ申シヤウガ無イノデスガ、ソレニ拘ハリマセズ此案ニ對シマシテハ不成立ヲ希望イタシマシテ、ソレニ反對ノ主張ヲ致シテ居リマス、今年モ矢張り同様反對ノ意見ヲ主張イタシマスル譯デゴザイマスガ、ソレニ付キマシテハ毎年ノコトデゴザイマスシ、別段ニ新シイ理由モ無イノデゴザイマスルガ 唯反對ヲ致シマスルカラ重ネテ其理

由ノ要領ダケヲ一言申上グルコトニ致シマス、第一ニ此法律ニ依リマシテ、ドノ位ノ件數ガ行政裁判所ニ出ルデアラウカト云フコトヲ想像イタシマスルニ、三十年ノ法律第五十號ニ依リマシテ處分ノ請求ヲ致シマシタ件數ガ合計十一萬六千六百五十五件ト云フ件數ニナッテ居ル、人數ヲ以テ申シマスルト二十九萬三千人餘リデゴザイマス、此件數ノ中、極ク内輪ニ見テ居リマスル積リデゴザイマスルガ、約五分ノ一ガ此法律案ニ依リマシテ行政裁判所ニ出ルモノト假定イタシマスルト、其件數ガ約二萬三千三百件ニ達シマスル割合ニナリマスルデゴザイマス、是ダケノ件數ヲバ行政裁判所ニ於キマシテ處理ヲスルニ付イテ何箇年ノ年月ヲ費ヤスデアラウカト云フコトヲ更ニ進ンデ考ヘテ見マスルニ、現在ハ御承知ノ通り行政裁判所ハ部ガ三ツゴザイマシテ、訟廷ガ二ツゴザイマス、此二ツノ訟廷デ三部ニ於テ判決ヲ致シマスル所ノ件數ガ四十年ノ實蹟ヲ以テ申シマスルト大凡五百件デゴザイマス、五百二十件餘リデゴザイマスガ大凡五百件ト申シテ置キマス、毎年ノ平均ノ件數ハ大抵此位ニナッテ居リマシテ、ソレヲ超過スルコトハ餘リ無イノデゴザイマス、サウ致シマスルト二萬三千何百件ト云フ件數ヲバ行政裁判所デ今ノ割合デ進行ヲ致ストシマスルト、四十六年餘リノ年月ヲ費ヤスヤウニナリマスノデゴザイマス、然ルニ此行政裁判所ニ於キマシテハ今日ノ裁判所ノ地面ノ中ニ於キマシテ訟廷ヲ一ツ以上建増ヲシマスルコトハ殆ド不能ニナッテ居リマス、一ツノ訟廷ヲ殖ヤシテ部數ヲ一ツバカリ殖ヤスト假定シマス、サウスルトソレダケ此年月ハ又延長スル譯ニナリマシテ四十五年、六年以上ノモノガ更ニ又何十年ト延ビルモノトナルト見ナケレバナリマセヌヤウニ思ヒマス、サウシテ此間ニ於キマシテノ民間ノ被リマス所ノ種々ノ迷惑、又ハ費用、是ハドウナルデアラウカト想像イタシテ見マスルト、第一ニハ大藏省ノ部ニ於キマシテハ從來ノ繼續ノ仕事デゴザイマスカラ、此訴訟ニ應ジマスル所ノ各種ノ準備ヲ毎年繼續シテ致サネバナリマセヌカラ、ソレガ爲ニ官吏モ相當ニ増員シナクテハナラヌノデゴザイマス、先ヅ少ク致シマシテモ書記官ノ一人モ殖ヤシ屬官ノ十四五人モ殖ヤシ、斯ウ云フコトニ致シマシテ、毎年ノ經常費ガ一萬八千餘圓ノ割合ニナルノデゴザイマス、併シ此訴訟トナリマスト云フト、又官吏ノ殘務旁ニ扱フト云フコトハ到底ムヅカシイノデゴザイマスカラシテ、斯ノ如キ訴訟ニ應ジマスニハ矢張り辯護士ニ依頼シマシテ、サウシテ訴訟ノ進行ニ對スルヤウニ致サヌケレバナラヌコトデゴザイマス、其辯護士モ

詰り必要ナモノニナリマスガ、其費用ヲ凡ソ計算イタシマスルト、今ノ二萬三千餘件ニ付キマシテ一件平均百圓ツツ位ノ報酬ヲバ辯護士ニヤルト致シマス、殆ド百圓デハ應ズル人ハ無イデゴザイマセウガ、先ヅ此位ノモノニ見マシテ、此事件ノ終ルマデニ要スル所ノ辯護士ノ報酬ガ二百三十三萬餘圓ニナリマスノデゴザイマス、是ハ大藏省ノ側ノ費用デゴザイマスガ、更ニ又此行政裁判所ノ方ノ費用ニナリマスト云フト、一部ノ増設、一法廷ノ増設之ヲ以テ満足ヲスルトシマスルト、毎年ノ經常費ガ三萬一千五百餘圓ヲ要スルヤウニナリマス、デ此上ニ若シ事ヲ早く運ビマス爲ニ認廷ヲ二ツモ三ツモ増加スルトシ、ソレガ爲ニ土地モ購入シ建築モ致シ、又部數モ二ツ又ハ三ツモ増加スルト云フコトニナリマス、又ソレニ相當スルダケノ經費ヲ増加スルヤウニナリマス、政府側デ經費ヲ要シマスル概算ハ凡ソコンナモノデゴザイマス、民間ニ於キマシテモ、殆ド相類シタ所ノ費用ヲ要スルコトニナラウト思フノデゴザイマス、少クトモ辯護士ノ報酬ダケハ必然ニ要シマスル所ノ費用デゴザイマス、其上ニ又各地方ノ人ガ總テ裁判所ニ出ルト云フ譯ニ參リマセヌカラシテ種々ナ周旋人又ハ代理人ト云フヤウナ者ノ奔走ノ費用モ加ハルコトデゴザイマセウ、其爲ニ請願者ノ被リマス所ノ負擔ハ此前ノ秩祿處分ノトキノ實蹟ニ徴シテ考ヘテ見マシテモ餘ホド大キナモノデアラウト考ヘルノデゴザイマス、デ負擔ノミナラズ、長イ年月ノ間デゴザイマスカラシテ、其間ニ請願者ノ被リマスル所ノ種々ノ迷惑、又ハ損害ハ是ハ別ニ明言ヲ要シマセヌデモ、ドナタモ御想像デアラウト考ヘルノデゴザイマス、デ斯ノ如キ費用ヲ掛ケ、年月ヲ費シ、ソレカラ社會ノ迷惑ヲバ忍ビマシテ、サウシテ之ヲ實行シマシテ得ル所ノ結果ハ、ドノ位ノモノデアアルカト云フコトヲ更ニ想像イタシテ見マスト、是ハ別ニ據ル所ハゴザイマセヌカラシテ、前回ノ秩祿調査ノ實蹟ニ據リマシテ假ニ想像ヲ致シテ見マスト、二十九萬人以上ノ請願者ノ中カラ致シマシテ救濟處分ヲ受ケマシタ者ガ僅ニ三千九百人餘リデゴザイマシタ、四千人ニ達シマセヌノデゴザイマシタ、デ此事ハ實ハ先刻、谷委員長ノ御言葉ニモアリマシタヤウニ、請願ノ總數ニ對シテハ甚ダ寡少ノヤウデゴザイマシテ、一見シマシテ餘ホド少數ニ思ハレマスケレドモ、能ク熟考イタシテ見マスト、寧ロ是ガ當然ノ結果デアアルカトモ思フヤウデゴザイマス、ソレハ御承知ノ通り法律第五十號ハ明治初年ノ各藩ノ祿ニ關シマスル所ノ制度ノ當否ヲ判決イタシテ、サウシテ其制度ノ引直シヲバ目的ト致シマスノデナクシテ、當時

ノ制度ニ對シマシテ實際處分ニ錯誤ノアリマス所ヲバ救濟スルト云フノガ目的ニナツテ居リマス、サウ致シマス、一定ノ制度ガアツテ其實行ノ處分ガ非常ニ澤山間違ッテ居ルト云フコトハ到底有ルベキコトデゴザイマセヌカラシテ、其救濟處分ニ於テ不當トスルモノガ極メテ僅少デアルト云フコトハ、是ハ寧ロ當然ト見テモ宜イコトト考ヘルノデゴザイマス、ソレカラ推シテ考ヘマスルト、此法律案ノ成立シタ上ニ行政裁判所ガ據ル所ノモノハ矢張り法律五十號デ、其五十號ハ救濟處分、錯誤ヲ矯正スルト云フダケデアツテ、制度ノ當否ヲ論ジテ引直スト云フノデハナイノデゴザイマスカラ、矢張り此前ノ秩祿處分ノ際ニ發見シマシタ所ノ不當處分、其以外ニ澤山ナモノヲ見出シマスルコトハ殆ド考ヘ及バヌノデゴザイマス、サウシマスルト、前デアツテモ既ニ於キマシテ救濟處分ヲ致シマスルト云フ件數ハ是ヨリモ更ニ少イモノト想像スル方ガ適當デアアルカト考ヘルノデゴザイマス、デサウ致シマスルト、ソレホドノ輕少ナ結果シカ得マセヌノ今ノ如ク四十幾年間ト云フガ如キ年月ノ間請願者ヲバ始終周旋者或ハ運動者ノ爲ニ各種ノ迷惑ヲ被ラシメ、又各種ノ負擔モ忍バンメナケレバナラヌヤウニナリマス、サウシテ一方ノ政府ニ於キマシテモ前ニ申シマスル通り少カラヌ經費ヲバ、ソレガ爲ニ費サナケレバナラスト云フコトニナリマス、雙方ノ輕重ヲ量ツテ見マスルト、ドウシテモ此案ノ趣旨ハ寧ロ同感ヲ表シマスルデゴザイマスケレドモ、此案ノ成立ニ贊成イタシマスルト云フコトハ政府トシテ如何ニモ出來マセヌノデゴザイマス、デ此理由ヲ以テ毎年此案ノ成立ニハ反對シテ居ッタノデゴザイマスガ、今年モ矢張り同一ノ理由ヲ以テ反對ノ意見ヲ表シマスルノデゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モ無イト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者

○議長(公爵徳川家達君) 甚ダ不明瞭デアリマスカラ反對者ノ起立ヲ請ヒマセウ

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ヲ開クベカラズトスル方ガ多數ト認メマス、故ニ本案ハ否決セラレマシタ

○子爵(一柳末徳君) 唯今ヨリ肥料取締法案、正副委員長互選委員會ヲ開キ

タイト思ヒマス、退席イタシテ宜シウゴザイマスカ
○議長(公爵徳川家達君) 一柳子爵ノ特別委員會へ退席ノ要求ハ許可シテ御
異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者多シ
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○侯爵黒田長成君 是ヨリ東洋殖産株式會社法案ノ正副委員長ノ互選會ヲ開
キタイト思ヒマス、退席シテ宜シウゴザイマセウカ

○議長(公爵徳川家達君) 黒田侯爵ノ要求ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス
「伯爵大原重朝君發言ノ許可ヲ求ム」

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ハ何デスカ
○伯爵大原重朝君 定足數ガ足ッテ居ルカ居ラナイカ、足ッたら異議ゴザイ
マセヌ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十九、衆議院議員選舉法中改正法律案、
衆議院提出、第一議會ノ續、特別委員長報告、寺島伯爵

衆議院議員選舉法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十三日

右特別委員長
伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿
「伯爵寺島誠一郎君演壇ニ登ル」

○伯爵寺島誠一郎君 衆議院議員選舉法中改正法律案、特別委員會ノ結果ヲ
御報告イタシマス、衆議院議員選舉法第十三條ノ第二項「政府ノ爲請負ヲ爲
ス者又ハ政府ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス」トゴザリマス
ル、此條文中ニゴザリマスル「請負」ノ文字ノ意義ヲ「司法部ニ於キマシテハ
廣義デ以テ解釋シ、衆議院ニ於キマシテハ狹義ヲ以テ解釋ラシテ居ルノデゴ
ザリマシテ、其實例ノア、タト云フコトハ諸君ノ能ク御承知ニナッテアルコ
トデゴザリマス、而シテ今度ノ改正ハ……衆議院提出ノ改正ハ「政府ノ爲」ト

云フ「爲」ノ字ヲ削リマシテ「政府ノ請負ヲ爲ス者」トシ「又ハ」ノ下ニ「主トシ
テ」ト入レテ、ソレカラ又「政府ノ爲」ノ「爲」ヲ削ッテ「政府ノ請負ヲ爲ス法人
ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス」ト書キ直シタノデアリマス、ソレデ此改正ノ主點
ト致シマスル所ハ「爲」ノ字ヲ存シテ置クトカ取ッテ仕舞フト云フコトニアラ
ズシテ「又ハ」ノ下ニ加ヘマシタ「主トシテ」ノ此文字ニ在ルノデゴザイマス、
此改正シタル點ガ果シテ相當ノ理由ニ基イテ改正サレタモノデアルヤ否ヤト
云フコトデ特別委員會ニ於テ審査ヲ致シマシタノデ、強ヒテ此改正ニ依ッテ
唯今申上ゲマシタ所ノ衆議院並ニ司法部ニ於テソレソレ取ッテ居リマスル所
ノ解釋ノ相違ヲ之ガ爲ニ調和セシメルトカ或ハ消滅セシメルカ否カト云フヤ
ウナコトハ別問題ニシテ置イタノデゴザリマス、ソレデ此條文ハ「主トシテ」
ト云フコトヲ入レタ以上ハドウナルコトデアラウカト云フコトヲ研究イタシ
マスルト「請負」ノ意義ガ廣義ニ解釋セラレヤウトモ或ハ狹義ニ解釋セラレヤ
ウトモ「主トシテ」政府ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス」トナリマ
スノデ、主トシテ民間ノ仕事、事業ヲシテ居リマシテ傍ラ政府ノ請負ヲ致シ
テ居ルト云フ法人ノ役員ハ議員ニ選舉セラレ得ルコトニナルノデアリマス、
デ改正ヲ致シマシタ條文ハ請負ヲ爲ス程度ヲ先ヅ弊害ノ最モ著シクアリハセ
ヌカト懸念セラレル部分ダケノ法人ニ限ッテ其役員ハ被選舉權ヲ持タセヌゾ
ヨト致シタノデアリマス、從ッテ商工業者ノ代表選出ノ範圍ヲ之ガ爲ニ多少
廣メタコトニナリマス、會テ市ヲ獨立ノ選舉區ニシマシタ精神モ此點ニ在ル
ノデ、誠ニ相當ノ理由ノ存在スルモノト認メマシテ、委員會ニ於テハ全會一
致ヲ以テ可決イタシマシタ、何卒諸君ニ於キシテモ委員會ノ議決通りニ御贊
成アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス
「伯爵大原重朝君發言ノ許可ヲ求ム」

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ハ……
○伯爵大原重朝君 此案ノ趣旨ハ簡單デアリマスカラ讀會ヲ省略アッテ可決
セラレムコトヲ希望イタシマス

○南郷茂光君 贊成
○千坂高雅君 贊成

○岩村兼善君 贊成
○伯爵萬里小路通房君 贊成

○谷新助君 賛成

○下郷傳平君 賛成

○伯爵廣澤金次郎君 賛成

○石井省一郎君 賛成

○中島永元君 賛成

〔其他〕賛成〔ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガア
ツト認メマス、讀會省略ヲ可トセララル議君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案特別委員長ノ報告ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請
ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十、明治三十四年法律第三十九號中
改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告、奥山政敬君

明治三十四年法律第三十九號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十四日

右特別委員長

奥山 政敬

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔奥山政敬君演壇ニ登ル〕

○奥山政敬君 三十四年法律第三十九號中改正法律案ノ委員會ノ經過ト結果
ヲ御報告イタシマス、御承知ノ通り此案ハ衆議院ノ提出デアリマシテ、昨日
委員會ヲ開キマシテ、先ヅ以テ政府委員ニ政府ノ意見ヲ聽クコトト致シマシ
タノデゴザイマス、司法省ノ政府委員ノ意見ニハ此永代借地權ト云フモノハ
民法ニモ認メテナイノデアッテ、此三十四年ノ三十九號ノ法律ト云フモノハ
甚ダ不完全デアアル、不備ナ點ガ多イ爲ニ、居留地ノ永代借地權ニ對スル裁判

上是マデ往々不都合ナコトガアッテ處分ニ困ツタコトガアル、所デ此衆議院
提出案ヲ見ルト、ソレ等ノ點ハ其不備ノ點ヲ除クコトトナッテ居ッテ至極結
構ナ案ト見ルカラシテハ、此案ニ對シテハ同意ヲ表スルト云フコトデアリマ
シタノデス、ソレカラ是ハ外國ニ關係スルノデアリマスカラ、外務省ノ意見
ヲ聽キマシタ所ガ、外務省ノ政府委員ノ言ヒマスノニ此案ノ通りニナッテ外
國人ニ對シテ少シモ顧慮スルコトハナイ、此案ノ通りデ差支ナイカラ同意ヲ
スルト云フコトデアリマシタ、ソレデ委員中カラシテ種々ノ質問モアッタノ
デアリマスル、アリマスルガ要スルニ此民法中ニ認メテ居ナイモノデアリマ
スカラ、競賣ト云フコトガ出來ナイノデアリマシテ、此永代借地權ヲ任意ニ
賣買ヲスルニハ差支アリマセヌガ、任意デナクシテ競賣スルヤウナコトガア
ツタトキニハ法律ガ無イト其競賣ト云フコトガ甚ダ出來惡イノデアリマス、
故ニ其競賣ヲスルニ付イテ差支ナイ爲ニ此法律ヲ拵ヘテ衆議院カラ出シタト
云フコトデアアルノデアアル、段々委員會デモ種々ノ質問モ出マシタガ、結局此
案ニ於テハ至極結構ナ案デ之ヲ通過シタ方ガ宜カラウト云フノデ、全會一致
ヲ以テ此案ハ可決シタノデアリマス、右申上ゲル通りニ誠ニ明瞭ナ案ト考ヘ
マスルカラシテ、會期モ切迫シテ居リマスルカラ讀會省略ヲ以テ直ニ可決セ
ラレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵廣澤金次郎君 讀會省略ニ賛成シマス

○伯爵柳澤保惠君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○伯爵萬里小路通房君 賛成

○岩村兼善君 賛成

○伯爵寺島誠一郎君 賛成

○子爵山口弘達君 賛成

○子爵土御門晴榮君 賛成

○男爵茨木惟昭君 賛成

〔其他〕賛成〔ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 奥山君ノ讀會省略ノ動議ハ定規ノ賛成者ガアッ
ト認メマス、奥山君ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案、特別委員長ノ報告ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○徳久恆範君 此場合ニ日程追加ノ動議ヲ提出シマス、唯今産業組合法ノ特別委員會ヲ開キマシテ決定イタシマシタカラ、ソレヲ報告シタウ存ジマス

○一木喜徳郎君 日程追加ニ賛成イタシマス

○子爵有馬頼之君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 徳久君ノ議事日程追加ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 多數ト認メマス、議事日程ハ追加セラレマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ産業組合法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長報告

産業組合法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十一年三月二十五日

右特別委員長

徳久 恆範

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔徳久恆範君演壇ニ登ル〕

○徳久恆範君 唯今、本案ノ委員會ヲ開キマシテ政府ノ意見モ能ク質問ヲ致シマシタ、此案ハ御承知ノ通り産業組合ノ發達ヲ促スト云フコトハ最モ當今急務ナコトゴザイマス、此事ハモウ喋々申上グルニモ及ビマセス、皆サン御承知ノ事デゴザイマスガ、之ヲ成立タセルニ付キマシテ此法律中ニ登録税ト云フモノガアリマシテ、甚ダ此發達ニ難義ヲシテ居ル事情ガゴザイマス、此有益ナル法案デゴザイマスカラ、ドウカ此通リニシテ通過サスルト云フコトヲ全會一致ヲ以テ決議イタシマシタ、政府ノ意見ヲ尋ネマシタガ、政府ハ

之ニ反對ヲ唱ヘラレマス、其反對ノ重モナルコトハ第一之ヲ免除イタシマスルト云フト大凡一萬圓以上クラナ收入ガ減リマス、ソレトモウ一ツハ營利ヲ目的トシマセヌ所ノ公益團體ガ他ニモアリマスカラ、ソレトノ權衡ヲ失フト云フコトデ、政府ノ反對ノ重モナルハ此二點デゴザイマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ此目下有益ノ事業デ之ヲ誘導シテ盛ニスルト云フコトハ、國家ノ經濟上、實ニ必要ナコトデアルト云フノデ、政府ノ反對ニモ拘ハリマセズ皆同一ニ此案ノ通過ヲ賛成イタシマシタ、此事ヲ御報告イタシマス、序デニ是ハ觀易イ短簡ナ議案デゴザイマスカラ、讀會省略デ御決議ニナラムコトヲ希望イタシマス

○南郷茂光君 賛成

○男爵金子有卿君 賛成

〔政府委員菅原通敬君演壇ニ登ル〕

○政府委員(菅原通敬君) 本案ニ對シマシテハ政府ハ遺憾ナガラ御同意ヲ致シ兼ネルノデアリマス、唯今反對ノ理由トシテ委員長カラ御報告ニナリマシタガ税額ノ減ルト云フコトニ付キマシテハ重モナル反對ノ理由トハ政府ハ致シテ居リマセヌ、税額ノ多少ハ暫ク措キマシテ、登録税ヲ全然免除スルト云フコトニナリマス、登録税法ノ根本ノ主義ヲ打毀ハスト云フノガ反對ノ重モナル理由デアリマス、ソレト共ニ唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ通り、若シ之ヲ全然免除イタスコトニナリマスと云フト、他ノ公益法人ノ場合ト甚シキ不權衡ニナルコトガ反對ノ第二ノ理由デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス、本案ハ否決セラレマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十一ヨリ議事日程第二十九マデヲ問題ニ供シマス

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

意見書案

東京市電車市營不認可ノ件

東京市京橋區木挽町子爵青山幸宜外五十九名呈出

同市本郷區駒込千駄木林町士族牧畜業牧田義雄外三名呈出

右ノ請願ハ東京市ノ電車市營案ハ市財政ノ理亂ニ關スル重大事件ニシテ市會ハ輕輕之ヲ可決シタルモ買收其ノ時機ニ適セス計算其ノ當ヲ失シ殊ニ巨額ノ高利公債ヲ發行スルカ如キハ公私經濟ニ一大禍患ヲ醸スモノナルヲ以テ市營ノ申請ニ對シテハ監督官廳ニ於テ不認可ノ處分ニ出テラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

青森築港ニ關スル件

青森商業會議所會頭大坂金助呈出

右ノ請願ハ青森港ハ本州ト北海道及樺太トノ交通ノ要衝ニ當リ灣廣ク水深クシテ船舶ノ出入頻繁ナリト雖防波堤等ノ設備ヲ闕キ旅客貨物ノ受クル損害尠カラズ殊ニ浦鹽斯德トノ航通開始モ遠カラサルカ故ニ國費ヲ以テ速ニ同港ヲ修築セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

郵便局設置ノ件

岡山縣阿哲郡本郷村長名越舜倫外二名呈出

右ノ請願ハ岡山縣阿哲郡本郷村外二箇村ハ明治十八年六月本郷村ニ於ケル郵便局ノ廢止セラレタル以來遠隔ナル新見郵便局外二局ノ集配區ニ分屬セシメラレ郵便物ノ遲著等不便利尠カサルヲ以テ是等各村ノ爲ニ戸口多ク商業及鑛業ノ盛ナル本郷村ニ郵便局ヲ再設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ

別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正洩地地價修正ノ件

群馬縣邑樂郡佐貫村平民農齋藤金重郎外百三名呈出

同縣新田郡強戸村平民農增田才太郎外百四十五名呈出

同縣邑樂郡高島村平民農岩崎清一郎外五十二名呈出

同縣新田郡鳥之郷村平民農石橋類一郎外三十七名呈出

右ノ請願ハ渡良瀬川沿岸地方特別地價修正洩地地價修正ハ既ニ再三帝國議會ニ於テ可決セラレタルニ拘ラス未タ其ノ恩典ニ浴スルコト能ハサルヲ以テ政府カ明治四十一年度ニ於テ院議ヲ實行セラルル様取計ヲハレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

縣區域變更ノ件

長崎縣壹岐郡志原村農大曲文五郎外四十七名呈出

右ノ請願ハ壹岐島ハ古來福岡博多トノ交通頻繁ニ貨物ノ需要供給其ノ他ノ關係密接ナルニ反シ長崎トノ交通不便ニシテ諸般ノ關係薄シト雖當初之ヲ詳ニセシテ長崎縣ノ管轄ニ屬セシメラレ島民ノ不便利ヲ蒙ルコト尠カラサルヲ以テ之ヲ福岡縣ノ區域ニ移サレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

北海道鐵道天鹽北見線工事速成ノ件

北海道宗谷郡稚内町平民漁業小林常吉外三十九名呈出

右ノ請願ハ北海道鐵道天鹽北見線ノ敷設ハ沿線各地ノ富源ヲ開發シ拓殖ノ進捗ニ資スルコト大ナルノミナラス稚内旭川ノ聯絡ハ國防上一日モ緩ウスヘカラサルモノナルヲ以テ之カ速成ヲ期セムカ爲更ニ宗谷郡稚内ヲ基點トシテ其ノ工事ニ著手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

甲府岩淵間鐵道速成ノ件

静岡縣庵原郡富士川町長齋藤三郎外四名呈出

山梨縣甲府市山田町銀行業若尾民藏外七十一名呈出(二通)

右ノ請願ハ甲府岩淵間ノ鐵道ハ既ニ豫定鐵道線路中ニ編入セラレタルモ之カ敷設ハ東海東山兩道ノ聯絡ニ必要ニシテ且近時静岡縣清水港ノ發展ハ益其ノ速成ヲ促スノミナラス軍事上急ヲ要スルモノナルヲ以テ最近年度ニ於テ起シ日本大博覽會開催ノ其日迄ニ之ヲ竣成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

漁業料減額ノ件

北海道函館區西濱町平民漁業品田鹿藏外十名呈出(二通)

貴族院議事速記録第十八號

明治四十一年三月二十五日

請願會議

右ノ請願ハ請願人等ハ日露開戦ノ前ヨリ樺太島ニ於テ漁業ニ從事シタルニ依リ漁場貸下ノ優先特許ヲ得タルモ漸次其ノ漁業料ヲ増加セラレタルニ反シ入札漁業者ニ對シテハ却テ之ヲ低減セラレタル爲兩者ノ間平衡ヲ失シ當初ニ於ケル優先ノ特典ハ終ニ空名ニ歸スルニ至レルヲ以テ料金ヲ減額セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

樺太島閉鎖漁場開放再許可ノ件

北海道函館區辨天町平民漁業桂久藏外十二名呈出(二通)

右ノ請願ハ請願人等ハ多年樺太島ニ在リテ露國政府ノ許可ヲ得テ漁業ニ從事中紅魚族ノ繁殖保護ヲ名トシテ其ノ漁場ヲ閉鎖セラレ多大ノ損害ヲ受ケタル者ナルヲ以テ之ヲ開放シ再ヒ請願人等ニ漁場ヲ貸下ケラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

○議長(公爵德川家達君) 唯今、問題ニ致シマシタ請願ハ總テ請願委員長ノ報告通リデ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ニ議事日程第三十ヨリ第三十八マテラ議題ニ供シマス

意見書案

露國政府ヨリ取消サレタル優先漁業權ノ再許可ニ關スル件

三重縣四日市市濱町平民漁業田中武兵衛外二名呈出

右ノ請願ハ請願人等カ多年樺太島ニ在リテ行使セル漁業權ハ嘗テ露國政府ヨリ不法ニ取消サレ後又我カ當局者ノ不當處分ノ爲ニ請願人等カ辛苦經營ニ成レル漁場建築物等ハ公入札ニ依リテ遂ニ他ノ漁業者ノ所有ニ歸スルニ至リ多大ノ損害ヲ被リタルヲ以テ適當ナル救濟ヲ仰キタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

奈古浦九擊沈ニ關シ被害者救濟ノ件

富山縣射水郡新湊町商南島間作法代理人南島儀三郎呈出

右ノ請願ハ請願人ノ所有ニ係ル商船奈古浦丸ハ明治三十七年二月九日陸軍省御用船タルヘキ内命ニ接シ宣戰ノ布告アリタルコトヲ知ラスシテ同月十一日青森縣艦作崎沖合ヲ航行中露國軍艦ノ爲不法ニ擊沈セラレタルヲ以テ當時ノ被害者ニ對シ適當ナル救濟ヲ仰キタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

平戸區裁判所御厨出張所設立ノ件

長崎縣北松浦郡御厨村長大久保純外一名呈出

右ノ請願ハ長崎縣北松浦郡御厨星鹿ノ兩村ハ人口多ク產物ニ富ミ諸般ノ取引頻繁ナルニ拘ラス區裁判所出張所ノ設ナキ爲登記事件ハ非常ニ滯滞シ金融ノ圓滑ヲ闕キ事業ノ不振ヲ來タスニ至リ人民ノ困難尠カラサルヲ以テ速ニ御厨村ニ平戸區裁判所出張所ヲ置設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊

及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

佐世保區裁判所出張所設置ノ件

長崎縣北松浦郡柚木村長三間文五郎外二名呈出

右ノ請願ハ長崎縣北松浦郡柚木村外二箇村ハ佐世保區裁判所山口出張所ノ管轄區域ニ屬スルモ其ノ距離遠隔ニシテ交通不便ナルノミナラス登記事件ノ數逐年多キヲ加フルヲ以テ是等三箇村ヲ管轄スヘキ同區裁判所出張所ヲ大野村ニ増設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

故參謀總長有栖川宮熾仁親王殿下ノ神靈ヲ官幣社トシテ奉祀ノ件

兵庫縣明石郡垂水村平民農有本重五郎外四十七名呈出

故有栖川宮熾仁親王殿下ノ偉績ヲ無窮ニ傳ヘムカ爲殿下ノ嘗テ風色ヲ愛シ療養ノ地トシ給ヒシ兵庫縣明石郡舞子濱ニ官幣社ヲ建立シ以テ其ノ英靈ヲ奉祀セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

越羽海岸鐵道酒田新庄間鐵道速成ノ件

山形縣東田川郡山添村長五十嵐九兵衛外二十七名呈出

右ノ請願ハ新發田秋田間ノ越羽海岸鐵道並新庄酒田間ノ鐵道ノ敷設ハ地方交通ノ闕陥ヲ補ヒ產業及人文ノ進歩ヲ促スノミナラス樺太其ノ他露領沿海洲ニ對スル關係ヲ近接セシムルモノニシテ戰後經營上一日モ緩ウスヘカサルヲ以テ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

酒造稅法中改正ノ件

秋田縣北秋田郡酒造組合長越前谷玉吉呈出

右ノ請願ハ酒造業ヲ保護シテ國家ノ稅源ヲ涵養スル爲酒造稅法中納稅期第四期ヲ五月三十一日迄ニ繰下ケ且造石數ヲ査定スルニ當リ百分ノ二ノ滓引減量及百分ノ八ノ貯藏減量ヲ控除スルコトニ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

畑地租特免ノ件

茨城縣北相馬郡東文間村長岩戸幸之助呈出

右ノ請願ハ茨城縣北相馬郡東文間村ハ明治三十九年ヨリ同四十年ニ互リテ利根川ノ水害ヲ被リ畑作物ノ損失約三分ノ二以上ニ達シ住民ハ流離顛沛ノ悲境ニ陥リ爲ニ義務教育年限ノ延長ニ關スル施設ノ如キ之ヲ完ウスルコト能ハス村治ニ重大ナル支障ヲ生スルノ虞アルニ依リ明治四十年八月水害ノ當時收穫皆無ニ歸シタル畑地ニ對シ田租ト同シク地租ヲ免除セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

借地人ノ權利保護ニ關スル件

東京市京橋區築地二丁目平民辯護士鹽入太輔外三十二名呈出

右ノ請願ハ民法ハ市街宅地上ニ行ハレタル多年ノ慣習ヲ無視セル爲借地人ハ地主ノ橫暴ニ苦シムノミナラス經濟社會ニ變動ヲ來スノ虞アルヲ以テ借地人ノ權利ヲ保護スル爲貸主ハ豫メ移轉料ヲ提供スルニ非サレハ宅地ノ明渡ヲ請求スルコトヲ得サル等ノ主旨ヲ以テ適當ナル法律ヲ制定セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十一年 月 日

貴族院議長公爵 德川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

○議長(公爵德川家達君) 請願委員長ノ報告通りテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、明日ハ開會ヲ致シマスガ、議事日程ハアトヨリ御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午後二時二十二分散會